

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-67257

(P2003-67257A)

(43) 公開日 平成15年3月7日(2003.3.7)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード(参考)
G 0 6 F 12/14	3 2 0	G 0 6 F 12/14	3 2 0 F 5 B 0 1 7
	3 1 0		3 1 0 D 5 B 0 7 6
1/00		17/60	1 4 2
17/60	1 4 2		3 0 2 E
	3 0 2	9/06	6 6 0 F

審査請求 未請求 請求項の数10 OL (全 43 頁)

(21) 出願番号 特願2001-256242(P2001-256242)

(22) 出願日 平成13年8月27日(2001.8.27)

(71) 出願人 301053279

安藤 さやか

静岡県掛川市柳町18番地 シティハイツお

おすみA202号

(72) 発明者 安藤 さやか

静岡県掛川市柳町18 シティハイツおお

すみA-202

Fターム(参考) 5B017 AA04 AA07 BA09 BB10 CA16

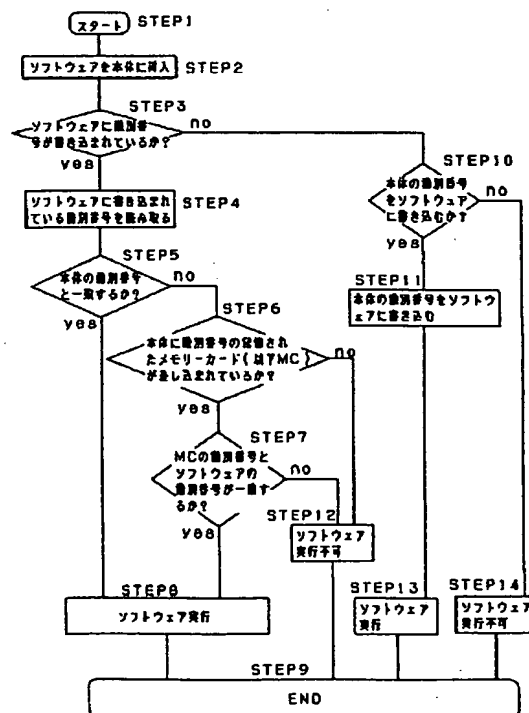
5B076 FB06

(54) 【発明の名称】 ソフトウェアの使用端末固定化システム

(57) 【要約】

【課題】 当該ソフトに記憶された外部記憶媒体や当該ソフトの記憶されたネットワークの上よりダウンロードするソフトは、最初に読み出した読み出し手段以外には読みだすことができないため、正当な対価を払わない者の不正使用及び不正コピーや中古ソフトの再使用などを防止することができ、ひいては、著作権の保護に貢献する。

【解決手段】 ソフトウェアに記憶された識別番号と識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときにはソフトウェアに記憶された識別番号と補助外部記憶手段に記憶あるいは複製された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システム。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記識別番号登録手段に登録された識別番号が記憶あるいは複製された補助外部記憶手段と前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記補助外部記憶手段に記憶あるいは複製された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システム。

【請求項2】固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは、請求項1の補助外部記憶手段を用いたソフトウェアの使用端末固定化システムにおいて、識別番号が付与されていないソフトウェアは複製を制限するかあるいは複製ができないようにするかあるいは、両方を有することを特徴とするソフトウェア使用端末固定化システム

【請求項3】固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは、請求項1の補助外部記憶手段を用いたソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは、請求項2のソフトウェアの使用端末固定化システムにおいて、識別番号登録手段に登録された固有の識別番号が複製可能であるか、あるいは、複製が制限されているか、あるいは、複製ができないかのいずれかを有することを特徴とするソフトウェアの使用端末固定化システム。

【請求項4】固有の識別番号の登録された識別番号登録

手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは、請求項1の補助外部記憶手段を用いたソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは、請求項2のソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムにおいて、ソフトウェアに固有の識別番号を付与した以外の装置（識別番号登録手段）でソフトウェアを使用可能にすることを特徴とするソフトウェアの使用端末固定化システム。

【請求項5】識別番号登録手段に登録された固有の識別番号が識別番号付与手段によって付与されたソフトウェアにおいて、ソフトウェアに付与された識別番号を消去することを特徴とする識別番号消去手段

【請求項6】ソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を増やすことを特徴とする識別番号記憶個数変更手段

【請求項7】固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システムあるいは請求項1あるいは請求項2あるいは請求項3あるいは請求項4のソフトウェア使用端末固定化システムにおいて、固有の識別番号が付与されたソフトウェアあるいは固有の識別番号が付与されていないソフトウェアを貸し出しすることを特徴とするソフトウェアレンタルシステム。

【請求項8】固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えたソフトウェアの使用端末固定化システム

あるいは請求項1あるいは請求項2あるいは請求項3あるいは請求項4のソフトウェア使用端末固定化システムで固有の識別番号が付与されたソフトウェアあるいは固有の識別番号が付与されていないソフトウェアを販売することを特徴とする中古ソフトウェア販売システム。

【請求項9】請求項5の識別番号消去手段あるいは、請求項6の識別番号記憶個数変更手段のいずれか一方、あるいは両方を有することを特徴とするソフトウェアレンタルシステム。

【請求項10】請求項5の識別番号消去手段あるいは、請求項6の識別番号記憶個数変更手段のいずれか一方、あるいは両方を有することを特徴とする中古ソフトウェア販売システム。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【産業上の利用分野】この発明はソフトウェアの使用端末固定化システムに関し、パソコンのアプリケーションソフト又はコンピュータのアプリケーションソフト、また、ゲーム機のゲームソフト、音響AV機器等（CDプレーヤ、MP3プレーヤ等）の音楽ソフト（音楽コンテンツ、音楽情報）、映像AV機器等（レーザーディスク（登録商標）、DVDプレーヤ等）の映像ソフト（映像コンテンツ、映像情報）ネットワーク上よりダウンロード等によって取得するあらゆるソフト（アプリケーションソフト、ゲームソフト、映像ソフト、音楽ソフト）、通信及び放送受信端末（携帯電話、携帯情報端末、テレビ等）の音楽ソフト（情報）及び映像ソフト（情報）の不正使用を防止するために使用される。また、これらのソフトウェア、コンテンツを使用して行われるレンタルシステム、中古販売システムに利用する事が可能である。

##### 【0002】

【従来の技術】従来、コンピュータゲーム機のゲームソフト（ゲーム情報、ゲームコンテンツ）等は、複数のコンピュータによって使用することができるため、正当な対価を払わないで不正に使用されたり、中古になったものが再販売されて再使用される場合が多いものである。また、CDやDVD等に記憶されている音楽ソフト等（音楽コンテンツ、音楽情報）をパソコン等を使って不正コピーしネットワーク上に配信している。配信された音楽ソフト等は第三者が複製して無断で使用されている。また、他の著作権管理方法では、ネットワーク上の音楽配信サイトからダウンロードした場合、ダウンロードしたパソコンでしかソフトウェア（コンテンツ、情報）は使用できない。例えば、ダウンロードしたソフトウェア（コンテンツ、情報）は暗号化されており、暗号化されたソフトウェアを復号して使用するには復号化鍵や認証情報のようなライセンスが必要である。認証情報にはCPUやハードディスクの情報を記録しているので、ソフトウェアをコピーして他のパソコンにして他の

パソコンで使用することはできない。また、パソコンでダウンロードしたソフトウェアや復号化鍵コピーしようとした場合では、コピー回数を制限したりコピーができないようにする方法があるが、これらの方法ではソフトウェアの購入者が自由にソフトウェアや復号化鍵のバックアップ（コピー）をとることは事実上不可能なのでユーザーの使い勝手は非常に悪くなる。例えばソフトウェアのデータや復号化鍵が壊れたときは再度購入しなくてはならず、ハードディスクを交換したりパソコンを買い換えたりした場合は復号化鍵やソフトウェアは無効になるので再度購入しなければならない。また、コピー回数に制限はないがコピーするときにそのコピーを使用するプレーヤの固有のID情報を組み込んでしまう方式がある。この方式ではコピーするときに接続していたプレーヤだけでしかソフトウェアを使用できないので別のプレーヤでソフトウェアを使用する場合は新たにソフトウェアを購入しなければならない。それにソフトウェアをダウンロードしたパソコンとソフトウェアをコピーするときに記憶したIDを持つプレーヤが壊れてしまった場合ではソフトウェアは使用できなくなってしまう。従い、バックアップ（コピー）は可能であるが、バックアップの使用できる端末が固定されてしまうので購入者の使い勝手は非常に悪くなる。また、ダウンロードしたソフトウェアにダウンロードした者の個人情報（クレジットカードの暗証番号等）をソフトの一部として記憶させる電子透かし技術等があるが、この方式ではソフトウェアをダウンロード（購入）した者が不正コピー等をした場合、ソフトウェアに電子透かしとして記憶されている個人情報もコピーされてしまうので不正コピーを防止できるが、複数のコピーが可能であるため購入者が個人で楽しむために行ったコピーが第三者に盗難等にあい第三者の手に渡り悪用された場合は購入者の個人情報が明るみになってしまう危険性がある。

##### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このように正当な対価を払わない者の不正使用や中古卸業者の中古ソフト販売や中古ソフトの再使用を放置すると著作権が侵害されやすいという不都合を有した。

【0004】この発明の課題は、ソフト製作者の著作権（頒布権等）を保護するとともに、中古卸業者の中古ソフトを販売する権利をも保護することである。また、レンタル業者がCDやDVD等で音楽ソフト（音楽情報、音楽コンテンツ）や映像ソフト（映像情報、映像コンテンツ）等を貸し出しするときに、レンタル業者がソフトウェアを1回貸し出しするたびにソフトウェア制作者あるいはソフトウェア製作者が確実にソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料）を回収できるシステムである。

##### 【0005】

【課題を解決するための手段】この発明に係るソフトウ

エアの使用端末固定化システムにおいては、固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えているため、当該ソフトの記憶されたソフトウェアを初めて読みだすときは前記ソフトウェアに、前記識別番号登録手段に登録された識別番号を付与され、2度目に読みだすときから前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しが抑止されるものである。また識別番号が付与されていないソフトウェアはコピーを制限するかあるいはコピーができないようにするか、のいずれか一方又は、両方を有することが特徴でもある。

【0006】さらに、この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムにおいては、固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに、前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記識別番号登録手段に登録された識別番号が記憶された補助外部記憶手段と前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記補助外部記憶手段に記憶された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えているため当該ソフトの記憶されたソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号が前記ソフトウェアに付与され2度目に読みだすときから前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記補助外部記憶手段に記憶された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しが抑止されるものである。また識別番号が付与されていないソフトウェアはコピーを制限するかあるいはコピーができないようにするか、のいずれか一方又は、両方を有することが特徴でもある。尚、識別番号登録手段に登録されている識別番号を補助外部記憶手段に記憶させる方法の一例として、識別番号登録手段に登録された識別番号を補助外部記憶媒体に複製する等がある。

【0007】即ち、コンピュータにソフトをインストー

ルする場合やネットワーク上のソフトをダウンロードする場合は識別番号がソフトの一部としてコンピュータに記憶されるので、コンピュータに記憶されたソフトを外部記憶媒体にコピーしてもソフトの一部として識別番号がコピーされるので他のコンピュータでは外部記憶媒体にコピーしたソフトを読みだすことは出来ない。コンピュータに記憶されたソフトをネットワークを通して他のコンピュータに転送してもソフトの一部として識別番号が転送されるので他のコンピュータでは転送されたソフトを読みだすことはできないが、まだ識別番号が付与されていないソフトウェアをコピーできるようにしてしまうと、まだ識別番号が記憶されていないソフトウェアの不正コピーが横行する危険性があるので、まだ識別番号が記憶されていないソフトウェアはコピーを制限するかあるいはコピーができないようにしなければならない。しかし、場合によっては無料配布ソフトウェア等は複製を制限しなくても良い。従い、請求項2のソフトウェアの使用端末固定化システムで識別番号の付与されていないソフトウェアの複製に関して制限をしなくても良い場合もある。

【0008】さらに、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号を別の機器に複製することを特徴にしている。識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号が識別番号付与手段で付与されたソフトウェアを識別番号を付与した以外の機器で使用する場合は、その使用する機器に識別番号を複製する。するとソフトウェアに付与されている識別番号と、ソフトウェアを使用する機器に複製された識別番号が一致するのでソフトウェアを使用することができる。従い、請求項4のソフトウェアの使用端末固定化システムを実施する方法（実施例）としても良い。また、請求項1に示す補助外部記憶手段に識別番号を複製してもよい。但し、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号の複製を制限しなければ識別番号を不正に複製することによりソフトウェアの不正使用が行われる可能性がある。そこで、請求項3では、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号の複製を制限することも特徴としている。制限の方法としては、例えば、複製回数の制限、あるいは、複製する機器の制限等がある。また、請求項3では識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号が複製できないことも特徴としているので、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号が複製できないと、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号が記憶されたソフトウェアは、そのソフトウェアと同じ識別番号を有する機器（識別番号登録手段）でしかソフトウェアを使用することができない。また、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録された固有の識別番号が複製可能であるか、あるいは、複製が制限されているか、あるいは、複製ができないか

のいずれかを有することを特徴としているが、それらを組み合わせることも可能である。例えば、固有の識別番号が複製可能であり、且つ、複製が制限されているソフトウェアの使用端末固定化システムである。

【0009】また、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号を別の機器に複製することを特徴にしている。レンタル業者等がソフトウェアを貸し出す場合に、貸し出すソフトウェアに記憶されている識別番号をソフトウェアを借りる者がソフトウェアを使用する機器にその識別番号を複製すればソフトウェアを使用することができるので、ソフトウェアの識別番号を消去したり、ソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更（増やす）したりする必要がなくなる。また、請求項1に示す補助外部記憶手段に識別番号を記憶して、ソフトウェアとともに補助外部記憶手段を貸し出してもよい。

【0010】また、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号を別の機器に複製することを特長にしている。中古ソフト業者等が中古ソフトウェアを販売する場合に、販売するソフトウェアに記憶されている識別番号をソフトウェアを購入する者がソフトウェアを使用する機器（識別番号登録手段）にその識別番号を複製すればソフトウェアを使用することができるので、ソフトウェアの識別番号を消去したり、ソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更（増やす）したりする必要がなくなる。また、請求項1に示す補助外部記憶手段に識別番号を記憶して、ソフトウェアとともに補助外部記憶手段を販売してもよい。

【0011】請求項4では、ソフトウェアに固有の識別番号を付与した以外の装置（識別番号登録手段）でソフトウェアが使用できるようにすることを特徴としているのでソフトウェアを識別番号を付与した以外の装置で使えるようになる。その一例として、請求項1に示す補助外部記憶手段を用いた方法と請求項5に示す識別番号消去手段と請求項6に示す識別番号記憶個数変更手段等がある。

【0012】ソフトウェアに記憶された識別番号を識別番号消去手段によって消去すれば、新たに別の識別番号を前記ソフトウェアに記憶させることができるので、当該ソフトウェアを当初読みだした読み出し手段以外の読み出し手段によって読みだすことができるものである。この識別番号消去手段をレンタル業者の使用するレンタルシステムに組み込めば、ソフトウェアを貸し出すたびにソフトウェアに記憶された識別番号を消去して、そのときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料、対価）をソフトウェア製作者は回収できる。また、中古のソフトウェアを販売する場合も中古ソフトウェアに記憶された識別番号を消去するときにソ

フトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料、対価）をソフトウェア製作者は回収できる。また、請求項1あるいは、請求項2あるいは請求項3あるいは請求項4のソフトウェア使用端末固有化システムでソフトウェアに付与された識別番号を識別番号消去手段で消去すれば新たに別の識別番号を前記ソフトウェアに記憶させることができるので、当該ソフトウェアを当初読みだした読み出し手段以外の読み出し手段あるいは当初読みだした読み出し手段以外の機器によって読みだすことができるものである。（使用することができる。）

【0013】識別番号記憶部個数変更手段でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を増やせば（複数にすれば）、当該ソフトウェアを複数の読み出し手段によって読みだすことができるものである。この識別番号記憶個数変更手段をレンタル業者の使用するレンタルシステムに組み込めば、ソフトウェアを貸し出すたびにソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更（増やす）して、そのときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料）をソフトウェア製作者は回収できる。また、中古のソフトウェアを販売する場合も中古ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更（増やす）するときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料）をソフトウェア製作者は回収できる。また、請求項1あるいは、請求項2あるいは請求項3あるいは、請求項4のソフトウェア使用端末固有化システムにおいて、識別番号記憶個数変更手段を用いてソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更（増やす）すれば新たに別の識別番号をソフトウェアは記憶することができるので、当該ソフトウェアを複数の読み出し手段あるいは複数の機器によって読みだすことができるものである。（使用することができる。）

【0014】ソフトウェア（外部記憶媒体、ハードディスク等に記憶されている）が記憶できる識別番号の個数及び、ネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアが記憶できる識別番号の個数は原則として一つであるが、ソフト製作時に「識別番号記憶個数変更手段」でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を複数にすれば複数の読み出し手段によって読みだすことができる。ソフトウェア製作後も「識別番号記憶個数変更手段」を使ってソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。場合によっては、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア製作後も外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア購入時に購入者側でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ネットワーク上のソフトウェア製作後もネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアが記憶できる識別番号の個数をダウンロード時（購入時）に

ダウンロード者側（購入者側）でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。

【0015】放送受信端末（テレビ、ビデオ、衛星放送受信端末、カーナビゲーションシステム等）においても放送（映像コンテンツ、音楽コンテンツ等）を受信するときに受信する端末の識別番号あるいは、放送を録画あるいは録音したときに使用した端末の識別番号及び、放送を記憶媒体へ記憶させたときに使用した端末の識別番号が放送に付与されるので、放送に識別番号を付与した端末でしか放送は使用することができない。その他の端末で使用するには、放送に記憶されている識別番号を識別番号消去手段で消去するか識別番号記憶個数変更手段を用いて放送が記憶できる識別番号の個数を変更する方法等がある。

【0016】請求項1あるいは、請求項2あるいは、請求項3あるいは、請求項4のソフトウェアの使用端末固定化システムで固有の識別番号が付与されたソフトウェアをレンタル業者が貸し出す場合、ソフトウェアには識別番号が付与されているのでそのままでは、ソフトウェアを借りる者のソフトウェアを使用する機器に登録されている識別番号とソフトウェアに付与されている識別番号が一致しないのでソフトウェアを使用することができない。また、固有の識別番号が付与されていないソフトウェアをレンタル業者が貸し出す場合では、ソフトウェアを借りる者がそのソフトウェアを使用するために用いた機器の識別番号がソフトウェアに付与されるので、次に貸し出す場合では既にソフトウェアには識別番号が付与されているので、その識別番号と一致する機器（識別番号登録手段）でしかソフトウェアを使用することができない。そこで、固有の識別番号が付与されているソフトウェアあるいは固有の識別番号が付与されていないソフトウェアをレンタル業者等が貸し出しする場合、請求項7に示すソフトウェアレンタルシステムが必要となる。そこで、請求項7のソフトウェアレンタルシステムの一例として請求項9に示すソフトウェアレンタルシステムが必要となる。請求項9に示す識別番号記憶個数変更手段を含むソフトウェアレンタルシステムでは別番号記憶個数変更手段を用いてソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更するか、あるいは識別番号消去手段を用いてソフトウェアに記憶されている識別番号を消去してソフトウェアを繰り返し貸し出すことを可能にしている。識別番号記憶個数変更手段を用いた方法では、ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更する時の対価（ソフトウェア使用料）をソフトウェアを貸し出しするたびにソフトウェア制作会社に支払わなければならない、従業員の作業負担が多くなり現状のレンタルシステムより業務効率が悪くなる。また、ソフトウェア使用料を支払うときのコストがソフトウェアを貸し出しする度に掛かってくる。識別番号記憶個数変更手段にオ

ンライン等でソフトウェア使用料を支払うようにしてもソフトウェアを貸し出しする度に通信料が掛かってくる。また、ソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）の混同をさけるためにソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料

（ソフトウェア制作会社の取り分）を別々に徴収し、別々に管理しなければならないので効率が悪い。識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムではソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）をソフトウェア貸し出し料金とソフトウェア使用料を合計したレンタル料金として徴収することができ、ソフトウェア製作会社へのソフトウェア使用料の支払いも一括して行えるので、従業員の手間を削減することができ、通信コストを削減することができる。従い、業務効率が上がるシステムである。また、請求項1あるいは、請求項2あるいは、請求項3あるいは請求項4に示すようなソフトウェアの使用端末固定化システムで識別番号が付与されたソフトウェアあるいは識別番号が付与されていないソフトウェアを貸し出しするとき、請求項6に示すようなソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で複数にすることができるソフトウェアレンタルシステムを構築することが可能である。

【0017】従い、識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料（レンタル業者の取り分）を徴収することができる。また、レンタル業者はソフトウェア使用料をソフトウェアを借りる者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことができ、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムを使用すれば、ソフトウェアの貸し出しあるいは、返却等を自動化（無人化等）することができる。

【0018】また、識別番号消去手段を用いた方法では、ソフトウェアに記憶されている識別番号を消去する時の対価（ソフトウェア使用料）をソフトウェアを貸し出しするたびにソフトウェア制作会社に支払わなければならない、従業員の作業負担が多くなり現状のレンタルシステムより業務効率が悪くなる。また、ソフトウェア使用料を支払うときのコストがソフトウェアを貸し出しする度に掛かってくる。識別番号消去手段を用いてオンライン等でソフトウェア使用料を支払うようにしてもソフトウェアを貸し出しする度に通信料が掛かってくる。また、ソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）の混同をさけるためにソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフ

トウェア制作会社の取り分)を別々に徴収し、別々に管理しなければならないので効率が悪い。識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムではソフトウェア貸し出し料金(レンタル業者の取り分)とソフトウェア使用料(ソフトウェア制作会社の取り分)をソフトウェア貸し出し料金とソフトウェア使用料を合計したレンタル料金として徴収することができ、ソフトウェア製作会社へのソフトウェア使用料の支払いも一括して行えるので、従業員の手間を削減することができ、通信コストを削減することができる。従い、業務効率が上がるシステムである。また、請求項1あるいは、請求項2あるいは、請求項3あるいは請求項4に示すようなソフトウェアの使用端末固有化システムで識別番号が付与されたソフトウェアあるいは識別番号が付与されていないソフトウェアを貸し出すとき、付与された識別番号を請求項5に示すようなソフトウェアに付与された識別番号を消去する識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムを構築することが可能である。

【0019】従い、識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料(レンタル業者の取り分)を徴収することができる。また、レンタル業者はソフトウェア使用料をソフトウェアを借りる者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことができ、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムを使用すれば、ソフトウェアの貸出しあるいは、返却等を自動化(無人化等)することができる。

【0020】請求項1あるいは、請求項2あるいは、請求項3あるいは、請求項4のソフトウェアの使用端末固有化システムで固有の識別番号が付与されたソフトウェアを中古ソフト業者が販売する場合、ソフトウェアには識別番号が付与されているのでそのままでは、ソフトウェアを購入する者のソフトウェアを使用する機器に登録されている識別番号とソフトウェアに付与されている識別番号が一致しないのでソフトウェアを使用することができない。また、固有の識別番号が付与されていないソフトウェアを中古ソフト業者が販売する場合では、あらかじめソフトウェアは識別番号が付与されていない状態にしなければならない。そこで、固有の識別番号が付与されているソフトウェアあるいは固有の識別番号が付与されていないソフトウェアを中古ソフト業者等が販売する場合、請求項8に示す中古ソフト販売システムが必要となる。そこで、請求項8の中古ソフト販売システムの一例として請求項10に示す中古ソフト販売システム等が必要となる。請求項10に示す識別番号記憶個数変更手段を含む中古ソフト販売システムでは識別番号記憶個数変更手段を用いてソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更するか、あるいは識別番号消去手段を用いてソフトウェアに記憶されている識別番号を消去して

ソフトウェアを販売することを可能にしている。識別番号記憶個数変更手段を用いた方法では、ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更する時の対価(ソフトウェア使用料)をソフトウェアを販売するたびにソフトウェア制作会社に支払わなければならない、従業員の作業負担が多くなり現状の中古ソフト販売システムより業務効率が悪くなる。また、ソフトウェア使用料を支払うときのコストがソフトウェアを販売する度に掛かってくる。識別番号記憶個数変更手段にオンライン等でソフトウェア使用料を支払うようにしてもソフトウェアを販売する度に通信料が掛かってくる。また、ソフトウェア販売料金(中古ソフト業者の取り分)とソフトウェア使用料(ソフトウェア制作会社の取り分)の混同をさけるためにソフトウェア販売料金(中古ソフト業者の取り分)とソフトウェア使用料(ソフトウェア制作会社の取り分)を別々に徴収し、別々に管理しなければならないので効率が悪い。識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムではソフトウェア販売料金(中古ソフト業者の取り分)とソフトウェア使用料(ソフトウェア制作会社の取り分)をソフトウェア販売料金とソフトウェア使用料を合計した中古ソフトウェア料金として徴収することができ、ソフトウェア製作会社へのソフトウェア使用料の支払いも一括して行えるので、従業員の手間を削減することができ、通信コストを削減することができる。従い、業務効率が上がるシステムである。また、請求項1あるいは、請求項2あるいは、請求項3あるいは請求項4に示すようなソフトウェアの使用端末固有化システムで識別番号が付与されたソフトウェアあるいは識別番号が付与されていないソフトウェアを販売する場合、請求項6に示すようなソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で複数にすることができる中古ソフト販売システムを構築することが可能である。

【0021】従い、識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料(中古ソフトの使用料、中古ソフト業者の取り分)を徴収することができる。また、中古ソフト業者はソフトウェア使用料をソフトウェア購入者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことができ、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムを使用すれば、中古ソフトウェアの販売を自動化(無人化等)することができる。

【0022】また、識別番号消去手段を用いた方法では、ソフトウェアに記憶されている識別番号を消去する時の対価(ソフトウェア使用料)をソフトウェアを貸し出すたびにソフトウェア制作会社に支払わなければならない、従業員の作業負担が多くなり現状の中古ソフト販売システムより業務効率が悪くなる。また、ソフトウェア使用料を支払うときのコストがソフトウェアを貸し

出しする度に掛かってくる。識別番号消去手段にオンライン等でソフトウェア使用料を支払うようにしてもソフトウェアを貸し出しする度に通信料が掛かってくる。また、ソフトウェア販売料金（中古ソフト業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）の混同をさけるためにソフトウェア販売料金（中古ソフト業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）を別々に徴収し、別々に管理しなければならないので効率が悪い。識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムではソフトウェア販売料金（中古ソフト業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）をソフトウェア販売料金とソフトウェア使用料を合計した中古ソフトウェア料金として徴収することができ、ソフトウェア製作会社へのソフトウェア使用料の支払いも一括して行えるので、従業員の手間を削減することができ、通信コストを削減することができる。従い、業務効率が上がるシステムである。また、請求項1あるいは、請求項2あるいは、請求項3あるいは請求項4に示すようなソフトウェアの使用端末固有化システムで識別番号が付与されたソフトウェアあるいは識別番号が付与されていないソフトウェアを販売する場合、請求項5に示すようなソフトウェアに付与された識別番号を消去する識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムを構築することが可能である。

【0023】従い、識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料（中古ソフトの使用料、中古ソフト業者の取り分）を徴収することができる。また、中古ソフト業者はソフトウェア使用料をソフトウェア購入者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことが、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムを使用すれば、中古ソフトウェアの販売を自動化（無人化等）することができる。

#### 【0024】

【実施の態様】以下、本発明について詳細に述べる。

【0025】本発明において、「識別情報」とは、例えば、アルファベット、数字、仮名文字等を適宜組み合わせたものであり、一例として「識別番号」、「識別信号」、「ID」が挙げられる。「識別情報」は、識別番号登録手段に登録されており、ソフトウェアに識別番号付与手段によって付与される。場合によってはCPUやハードディスク等の情報を「識別情報」にしてもよい。また、ソフトウェア製作者が発行するソフトウェア起動時あるいは初期起動時に起動情報としてソフトウェアに記憶させる「認証情報」または、前記「起動情報」を「識別情報」にしてもよい。「認証情報」、「起動情報」の例として復号化鍵等が挙げられる。「識別情報」はコピー（バックアップ）が可能である。識別情報のコ

ピーは補助外部記憶手段に記憶することができるし、場合によってはCPU、ハードディスク、RAM、ROM、ICチップにコピーを記憶させることもできる。尚、場合によっては識別情報のコピー（バックアップ）はコピー回数の制限等をすることも可能であるし、コピーができないようにすることも可能である。また、ソフトウェアに「識別情報」を記憶する専用の「識別番号記憶部」のような記憶領域がある場合はその「識別番号記憶部」のような記憶領域に「識別情報」を識別番号付与手段によって付与しても良い。また、ソフトウェアに付与された識別番号において、ソフトウェアから識別番号のみを複製することも場合によっては可能である。

【0026】「識別情報登録手段」とは、例えば、コンピュータの内部記憶装置（CPU、ROM、RAM、ICチップ等）である。この「識別情報登録手段」への「識別情報」の登録は原則としてコンピュータ製作時あるいは音響機器（CDプレーヤ等）の制作時あるいは、映像機器（DVDプレーヤ、レーザーディスク等）の制作時、携帯端末（携帯電話等）の制作時あるいは、放送受信端末（テレビ、ビデオ、DVDプレーヤ等）の制作時に行うが、製作後にFD、CD-ROM等の外部記憶媒体や外部記憶媒体に記憶されているソフトウェアを介して登録することもできる。また、ネットワーク上（ホームページ等）から登録することもできる。また、ソフトウェア製作者、ソフトウェア製作会社が発行する認証番号や復号化鍵、起動情報等を登録しても良い。また、場合によってはソフトウェア（プログラム）の制作時にソフトウェア（プログラム）に「識別情報登録手段」を設けて、そこに識別情報を登録してもよい。また、ソフトウェア（プログラム）の制作後にソフトウェア（プログラム）に「識別情報登録手段」を設けて、そこに識別情報を登録してもよい。

【0027】「ソフトウェア」とは、外部記憶媒体を用いたパソコンのアプリケーションソフト、コンピュータゲーム機のゲームソフト、音響AV機器等（CDプレーヤ、MP3プレーヤ等）の音楽ソフト（音楽コンテンツ、音楽情報、）映像AV機器等（レーザーディスク、DVDプレーヤ等）の映像ソフト（映像コンテンツ、映像情報）、ネットワーク上よりダウンロードするあらゆるソフト（アプリケーションソフト、ゲームソフト、映像ソフト、映像コンテンツ、映像情報、音楽ソフト、音楽コンテンツ、音楽情報）、通信及び放送（携帯電話でダウンロード又はインストールする情報及びソフト、携帯情報端末でダウンロード又はインストールする情報及びソフト、テレビ及び、ラジオ、衛星放送受信端末等で受信する放送あるいは情報、DVDプレーヤ、MP3プレーヤービデオデッキ等の映像機器、音響機器で録音あるいは録画する放送あるいは情報等）、外部記憶媒体（FD、DVD、CD-ROM等）に記憶されているソフトウェア（音楽ソフト、映像ソフト、アプリケーション



ンソフト)、ネットワークを介して取得することができるソフトウェア(ゲームソフト、音楽ソフト、映像ソフト)である。

【0028】ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数は原則として一つであるが、あらかじめ複数の識別番号を記憶可能にしておくことも可能である。また、ソフトウェアは、ソフトウェア製作時にソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ソフトウェア製作後もソフトウェア製作者(製作会社)が「識別番号記憶個数変更手段」を使ってソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。場合によっては、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア製作後も外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア購入時に購入者側でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ネットワーク上のソフトウェア製作後もネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアが記憶できる識別番号の個数をダウンロード時(購入時)にダウンロード者側(購入者側)でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段を使って適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ソフトウェアに識別番号が記憶されていない時はソフトウェアのコピー回数を制限したり、コピーできる記憶媒体を制限したり、コピーができないようにすることも可能である。

【0029】また、ソフトウェアに識別番号を記憶する専用の「識別番号記憶部」のような記憶領域を設けても良い。ソフトウェアに識別番号記憶部が設けられている場合、ソフトウェアの識別番号記憶部は原則として一つであるが、ソフト製作時に識別番号記憶個数変更手段で識別番号記憶部の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ソフトウェア製作後もソフトウェア製作者(製作会社)が「識別番号記憶個数変更手段」を使って識別番号記憶部の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。場合によっては、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア製作後も外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア購入時に購入者側が識別番号記憶個数変更手段を使って識別番号記憶部の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ネットワーク上のソフトウェア製作後もネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアの識別番号記憶部をダウンロード時(購入時)にダウンロード者側(購入者側)が識別番号記憶個数変更手段を使って識別番号記憶部の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。また、ソフトウェアの識別番号記憶部

に識別番号が記憶されていない時はソフトウェアのコピー回数を制限したり、コピーできる記憶媒体を制限したり、コピーができないようにすることも可能である。また、ソフトウェアにソフトウェア製作会社を判別するための「判別情報」を記憶させてもよい。

【0030】識別番号記憶個数変更手段とは、例えばソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更する手段である。ソフトウェアに識別番号を記憶させてしまうとソフトウェアに記憶された識別番号と同じ識別番号を持った識別番号登録手段を搭載した装置でなければソフトウェアは使用できない。そこでソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で増やせば増やした個数の識別番号をソフトウェアは記憶することができるので、複数の読み出し手段でソフトウェアを使用することができるものである。実施例としては、識別番号記憶個数変更手段ではソフトウェア製作後のソフトウェアが記憶できる識別番号の個数も識別番号記憶個数変更手段を使って適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によってソフトウェアを読み出すことができる。場合によっては、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア購入時に購入者側でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段で読み出すことができる。ネットワーク上のソフトウェア製作後もネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアをダウンロード時(購入時)にダウンロード者側でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。場合によっては、ソフトウェアの製作前、あるいは、製作中のソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更することも可能である。

【0031】また、ソフトウェアに識別番号を記憶する専用の「識別番号記憶部」のような記憶領域が設けられている場合では、ソフトウェアの識別番号記憶部に識別番号を記憶させてしまうと識別番号記憶部に記憶された識別番号と同じ識別番号を持った識別番号登録手段をもった装置でなければソフトウェアは使用できない。そこで識別番号記憶部を新たに設けることで別の識別番号も記憶できるようにするのが識別番号記憶個数変更手段である。識別番号記憶個数変更手段ではソフトウェア製作後の識別番号記憶部の個数も識別番号記憶個数変更手段を使って適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によってソフトウェアを読み出すことができる。場合によっては、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア購入時に購入者側で識別番号記憶部の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段で読み出すことができる。ネットワーク上のソフトウェア製作後もネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアの識別番号記憶部をダウンロード時(購入時)にダウンロード者側で識別番号記憶部の個数を適宜調整でき、複数にすれば

ば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。場合によっては、ソフトウェアの製作前、あるいは、製作中のソフトウェアの識別番号記憶部の個数を変更することも可能である。

【0032】また、ソフトウェアにソフトウェア製作会社（ソフトウェア製作者）を判別するための判別情報が記憶されている場合は、識別番号記憶個数変更手段に判別情報読み取り手段を含ませてもよい。その場合は、識別番号記憶個数変更手段でソフトウェアの識別番号を記憶できる個数を変更するときに、そのソフトウェアに記憶されている判別情報を判別情報読み取り手段で読み取ることができ、その判別情報を記憶することができる。また、識別番号記憶個数変更手段に課金手段を含ませてもよい。その場合は識別番号記憶個数変更手段でソフトウェアの識別番号を記憶できる個数を変更するときに、課金手段によって、ソフトウェアの識別番号を記憶できる個数を変更した数のソフトウェア使用料を徴収し、その時にソフトウェアの識別番号を記憶できる個数を変更した数、ソフトウェア使用料等を課金情報として記憶することができる。

【0033】また、識別番号記憶個数変更手段に課金判別手段を含ませてもよい。その場合は、前期判別情報と前期課金情報を「課金判別手段」によって前期判別情報と前期課金情報をひとつの情報である「課金判別情報」にしてこの課金判別情報からソフトウェア製作会社はソフトウェア使用料を受け取ることができる。また、識別番号記憶個数変更手段に「課金判別情報送信手段」を備えてもよい、その場合は「課金判別手段」で作られた「課金判別情報」を「課金判別情報送信手段」を使って「課金判別情報」あるいはソフトウェア使用料をソフトウェア製作者（製作会社）に送信あるいは、支払うことができる。また、識別番号記憶個数変更手段に識別番号記憶個数変更手段に「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を備えてもよい。その場合は、「課金判別手段」で作られた「課金判別情報」で、判別情報が甲で課金情報が200（200円）の「課金情報判別甲200」、判別情報が甲で課金情報が100（100円）の「課金情報判別甲100」、判別情報が乙で課金情報が300（300円）の「課金情報判別乙300」、判別情報が乙で課金情報が400（400円）の「課金情報判別乙400」で、この4種類の「課金判別情報甲200、甲100、乙300、乙400」が識別番号記憶個数変更手段に記憶されているとすると、「課金判別情報」は「課金判別情報分別手段」によって同種の判別情報を含んだ「課金判別情報」に分けられるので、判別情報が甲である甲200と甲100、判別情報が乙である乙300と乙400に「課金判別情報分別手段」で分けられる。分けられた「課金判別情報」は「課金判別情報一体化手段」によってひとつの「課金判別情報」にされる。従

い、甲200と甲100は甲300に（甲200+甲100=甲300）乙300と乙400は乙700に（乙300+乙400=乙700）にそれぞれなる。その後ひとつになった「課金判別情報」は、「課金判別情報判別送信手段」によってソフトウェア製作会社を割り出して「課金判別情報」をソフトウェア製作会社に送信する。従い、課金判別情報に含まれる判別情報甲及び、乙からソフトウェア製作会社甲及び、乙を判別し、甲300と乙700がソフトウェア製作会社に送られソフトウェア使用料がソフトウェア製作会社に支払われる。識別番号記憶個数変更手段としての実施例は、識別番号記憶個数変更装置やネットワーク上に識別番号記憶個数変更手段を持ち合わせているホームページ等があるがこれらに限定されるものではない。

【0034】識別番号消去手段とはソフトウェアに記憶されている識別番号を消去する手段である。例えば識別番号登録手段に登録されている識別番号を識別番号付与手段によってソフトウェアに付与された識別番号を消去する手段である。ソフトウェアに記憶されている識別番号を消去すると新たに別の識別番号が識別番号記憶部に記憶できるようになるので、当初ソフトウェアを読み出した読み出し手段以外の読み出し手段によって読み出すことができるようになる。また、場合によっては、識別番号消去手段によってソフトウェアに記憶されている識別番号に新たに別の識別番号を上書きする。または、上書き可能にすることも可能である。場合によっては、上書きができるようにすることも可能である。また、場合によってはソフトウェア起動時にソフトウェア製作者が発行している「認証情報」（復号化鍵、起動情報等）をソフトウェアに記憶させる場合は、その「認証情報」も識別番号消去手段によって消去すると新たに別の識別番号が記憶できるようになるので、当初ソフトウェアを読み出した読み出し手段以外の読み出し手段によって読み出すことができるようになる。識別番号消去手段の実施例は識別番号消去装置とネットワーク上に識別番号消去手段を持ち合わせているホームページ等があるがこれらに限定されるものではない。

【0035】また、ソフトウェアに識別番号を記憶する専用の「識別番号記憶部」のような記憶領域が設けられている場合は、ソフトウェアの識別番号記憶部に記憶されている識別番号を識別番号消去手段で消去すると新たに別の識別番号が識別番号記憶部に記憶できるようになるので、当初、読み出した読み出し手段以外の読み出し手段によって読み出すことができるようになる。また、場合によっては、識別番号消去手段によってソフトウェアの識別番号記憶部に記憶されている識別番号に新たに別の識別番号を上書き可能にすることも可能である。場合によっては、上書きができるようにすることも可能であるし、場合によっては識別番号を上書きすることができる。また、場合によってはソフトウェア起動時

にソフトウェア製作者が発行している「認証情報」をソフトウェアに記憶させる場合は、その「認証情報」も識別番号消去手段によって消去すると新たに別の識別番号が識別番号記憶部に記憶できるようになるので、当初、読み出した読み出し手段以外の読み出し手段によって読み出すことができるようになる。

【0036】また、ソフトウェアにソフトウェア製作会社（ソフトウェア製作者）を判別するための判別情報が記憶されている場合は、識別番号消去手段に判別情報読み取り手段を含ませてもよい。その場合は、識別番号消去手段でソフトウェアに記憶された識別番号を消去するときに、そのソフトウェアに記憶されている判別情報を判別情報読み取り手段で読み取ることができ、その判別情報を記憶することができる。また、識別番号消去手段に課金手段を含ませてもよい。その場合は識別番号消去手段でソフトウェアに記憶された識別番号を消去するときに、課金手段によってソフトウェア使用料（識別番号消去料）を徴収し、そのソフトウェア使用料等を課金情報として記憶することができる。

【0037】また、識別番号消去手段に課金判別手段を含ませてもよい。その場合は、前期判別情報と前期課金情報を「課金判別手段」によって前期判別情報と前期課金情報をひとつの情報である「課金判別情報」にしてこの課金判別情報からソフトウェア製作会社はソフトウェア使用料を受け取ることができる。また、また識別番号消去手段に「課金判別情報送信手段」を備えてもよい、その場合は「課金判別手段」で作られた「課金判別情報」を「課金判別情報送信手段」を使って「課金判別情報」あるいはソフトウェア使用料をソフトウェア製作者（製作会社）に送信あるいは、支払うことができる。また、識別番号消去手段に「課金判別情報分別手段」、

「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を備えてもよい。その場合は、「課金判別手段」で作られた「課金判別情報」である判別情報が甲で課金情報が200（200円）の「課金情報判別甲200」、判別情報が甲で課金情報が100（100円）の「課金情報判別甲100」、判別情報が乙で課金情報が300（300円）の「課金情報判別乙300」、判別情報が乙で課金情報が400（400円）の「課金情報判別乙400」で、この4種類の「課金判別情報甲200、甲100、乙300、乙400」が識別番号消去手段に記憶されているとすると、「課金判別情報」は「課金判別情報分別手段」によって同種の判別情報を含んだ「課金判別情報」に分けられるので、判別情報が甲である甲200と甲100、判別情報が乙である乙300と乙400に「課金判別情報分別手段」で分けられる。分けられた「課金判別情報」は「課金判別情報一体化手段」によってひとつの「課金判別情報」にされる。従い、甲200と甲100は甲300に（甲200+甲100=甲300）乙300と乙400は乙700に（乙

300+乙400=乙700）にそれぞれなる。その後ひとつになった「課金判別情報」は、「課金判別情報判別送信手段」によってソフトウェア製作会社を割り出して「課金判別情報」をソフトウェア製作会社に送信する。従い、課金判別情報に含まれる判別情報甲及び、乙からソフトウェア製作会社甲及び、乙を判別し、甲300と乙700がソフトウェア製作会社に送られソフトウェア使用料がソフトウェア製作会社に支払われる。識別番号消去手段の実施例は識別番号消去装置とネットワーク上に識別番号消去手段を持ち合わせているホームページ等があるがこれらに限定されるものではない。

【0038】「課金手段」とは、識別番号記憶個数変更手段でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更したときの変更料（ソフトウェア使用料）あるいは、識別番号消去手段でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去するときの消去料（ソフトウェア使用料）を受け取る手段で受け取った使用料などの情報を「課金情報」とすることができる（変換することができる。）また、「課金手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金手段」を設けてもよい。

【0039】「判別情報」とはソフトウェア製作会社（ソフトウェア製作者）を判別するための情報である。判別情報はソフトウェアにソフトウェアの一部とすることが可能であるし、ソフトウェアに記憶させることが可能である。また、ソフトウェアが外部記憶媒体に記憶されている場合、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェアの一部とすることが可能であるし、外部記憶媒体に記憶させることが可能である。判別情報を読み出す方法として「判別情報読み出し手段」がある。

【0040】「判別情報読み出し手段」とは「判別情報」を読み出す手段である。「判別情報読み出し手段」は「識別番号記憶個数変更手段」に組み込んで「識別番号記憶個数変更手段」でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更するときに「判別情報読み出し手段」でソフトウェアの「判別情報」を読み出すことができる。また、「判別情報読み出し手段」は「識別番号消去手段」に組み込んで「識別番号消去手段」でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去するときに「判別情報読み出し手段」でソフトウェアの「判別情報」を読み出すことができる。「判別情報読み出し手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「判別情報読み出し手段」を設けてもよい。

【0041】「課金情報」とは識別番号記憶個数変更手段でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更したときの変更料（ソフトウェア使用料）あるいは、変更した数あるいは、識別番号消去手段でソフトウェアに記

憶されている識別番号を消去するときの消去料（ソフトウェア使用料）を「課金手段」で受け取り、その受け取った使用料あるいはその情報を課金情報と言う。

【0042】「課金判別手段」とは「判別情報読み出し手段」で読み出されたソフトウェアの判別情報と課金手段で作られた「課金情報」を1つの情報として組み合わせる手段である。「課金判別手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金判別手段」を設けてもよい。

【0043】「課金判別情報」とは「判別情報読み出し手段」で読み出されたソフトウェアの判別情報と課金手段で作られた「課金情報」を「課金判別手段」で1つに組み合わせられたもの（情報等）である。

【0044】「ソフトウェアを読み出す読み出し手段」は、例えばパソコンやコンピュータゲーム機、音響AV機器（CDプレーヤ等）、映像AV機器（レーザーディスク、DVDプレーヤ等）等のCPUにプログラムされている場合と、RAM、ROM等の内部記憶装置にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「ソフトウェアを読み出す読み出し手段」を設けてもよい。「ソフトウェアを読み出す読み出し手段」とはソフトウェアを読み出す手段である。

【0045】「識別情報付与手段」は、例えばパソコンやコンピュータゲーム機、音響AV機器（CDプレーヤ等）、映像AV機器（レーザーディスク、DVDプレーヤ等）等のCPUにプログラムされている場合と、RAM、ROM等の内部記憶装置にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「識別情報付与手段」を設けてもよい。「識別情報付与手段」とは、ソフトウェアに識別番号（識別情報等）を付与する手段である。一例として、「識別番号登録手段」に登録されている識別番号をソフトウェアに付与することが可能である。場合によっては、ソフトウェアに識別番号記憶部のような識別番号を記憶する専用の領域等がある場合は、その識別番号記憶部に「識別情報付与手段」を使って識別番号を登録することも可能にすることができる。

【0046】「読み出し抑止手段」は、例えばパソコンやコンピュータゲーム機、音響AV機器（CDプレーヤ等）、映像AV機器（レーザーディスク、DVDプレーヤ等）等のCPUにプログラムされている場合と、RAM、ROM、ICチップ等の内部記憶装置にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「読み出し抑止手段」を設けてもよい。「読み出し抑止手段」とはソフトウェアの読出しを抑止する手段である。場合によっては、ソフトウェアの実行を抑止することも可能である。

【0047】「補助外部記憶手段」とは、例えば、メモ

リーカード（ICカード、ROMカード、RAMカード、磁気カード等）である。「補助外部記憶手段」は一例として識別番号登録手段に登録された識別情報と同じ識別情報を記憶できるし、識別番号登録手段に登録された識別情報のコピー（バックアップ）を記憶することができる。また、場合によっては、その他の情報も記憶することができる。また、場合によっては「補助外部記憶手段」に記憶させる識別情報の記憶個数の制限や記憶回数の制限を可能にしても良いし識別情報のコピーの記憶個数の制限や記憶回数の制限を可能にしても良い。また、場合によっては識別番号登録手段に登録された識別情報を「補助外部記憶手段」に記憶させる個数の制限や記憶回数の制限を可能にしても良いし識別番号登録手段に登録された識別情報のコピーの記憶個数の制限や記憶回数の制限を可能にしても良い。また、「補助外部記憶手段」に記憶した識別情報を消去することもできる。また、ソフトウェアを使用する本体（パソコン等、コンピュータゲーム機等、音響AV機器等、映像AV機器等）に着脱可能にしても良い。

【0048】識別番号消去手段を有するソフトウェアレンタルシステムとは、ソフトウェアを貸出しあるいは返却等するときソフトウェアに既に記憶されている識別番号を消去するための識別番号消去手段を有するシステムである。例えばソフトウェアに記憶されている識別番号を識別番号消去手段で消去するときに、「課金手段」で識別番号消去料金であるソフトウェア使用料を徴収し課金情報として記憶する。「判別情報読み出し手段」でソフトウェアの判別情報を読み出し記憶する。「課金判別手段」で前記判別情報と前記課金情報をひとつにした課金判別情報にする。課金判別情報は「ホストサーバ」に送られる。「ホストサーバ」に集まったいろいろな情報の中から「課金判別情報取り出し手段」で「課金判別情報」が取り出されて「課金判別情報送信手段」によって「ソフトウェア管理センター」に「課金判別情報」が送られる。「ソフトウェア管理センター」に集められた「課金判別情報」は「課金判別情報分別手段」によって同種の判別情報を含んだ「課金判別情報」に分けられる。分けられた「課金判別情報」は「課金判別情報一体化手段」によってひとつの「課金判別情報」にされる。その後ひとつになった「課金判別情報」は、「課金判別情報判別送信手段」によってソフトウェア製作会社を割り出して「課金判別情報」をソフトウェア製作会社へ送信する。尚、識別番号消去手段を有するソフトウェアレンタルシステムに「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ホストサーバ」、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、識別番号消去手段から直接「課金判別情報」（ソフトウェア使用料、識別番号消去料）をソフトウェア製作会社に

送ることができる。(ソフトウェア使用料の支払い)。  
また、「ホストサーバ」に「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、「ホストサーバ」から直接「課金判別情報」(ソフトウェア使用料、識別番号消去料)をソフトウェア製作会社に送ることができる。

【0049】識別番号消去手段を有する中古ソフトウェア販売システムとは、中古ソフトウェアを買い取り、あるいは販売等するときにソフトウェアに既に記憶されている識別番号を消去するための識別番号消去手段を有するシステムである。例えばソフトウェアに記憶されている識別番号を識別番号消去手段で消去するときに、「課金手段」で識別番号消去料金であるソフトウェア使用料を徴収し課金情報として記憶する。「判別情報読み出し手段」でソフトウェアの判別情報を読み出し記憶する。「課金判別手段」で前記判別情報と前記課金情報をひとつにした課金判別情報にする。課金判別情報は「ホストサーバ」に送られる。「ホストサーバ」に集まったいろいろな情報の中から「課金判別情報取り出し手段」で「課金判別情報」が取り出されて「課金判別情報送信手段」によって「ソフトウェア管理センター」に「課金判別情報」が送られる。「ソフトウェア管理センター」に集められた「課金判別情報」は「課金判別情報分別手段」によって同種の判別情報を含んだ「課金判別情報」に分けられる。分けられた「課金判別情報」は「課金判別情報一体化手段」によってひとつの「課金判別情報」にされる。その後ひとつになった「課金判別情報」は、「課金判別情報判別送信手段」によってソフトウェア製作会社を割り出して「課金判別情報」をソフトウェア製作会社へ送信する。尚、識別番号消去手段を有する中古ソフトウェア販売システムに「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ホストサーバ」、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、識別番号消去手段から直接「課金判別情報」(ソフトウェア使用料、識別番号消去料)をソフトウェア製作会社に送ることができる。(ソフトウェア使用料の支払い)。また、「ホストサーバ」に「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、「ホストサーバ」から直接「課金判別情報」(ソフトウェア使用料、識別番号消去料)をソフトウェア製作会社に送ることができる。

【0050】識別番号記憶個数変更手段を有するソフト

ウェアレンタルシステムとは、ソフトウェアを貸出し、あるいは返却等するときにソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更するための識別番号記憶個数変更手段を有するシステムである。例えばソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で変更するときに、「課金手段」で識別番号記憶個数変更料金であるソフトウェア使用料を徴収し課金情報として記憶する。「判別情報読み出し手段」でソフトウェアの判別情報を読み出し記憶する。「課金判別手段」で前記判別情報と前記課金情報をひとつにした課金判別情報にする。課金判別情報は「ホストサーバ」に送られる。「ホストサーバ」に集まったいろいろな情報の中から「課金判別情報取り出し手段」で「課金判別情報」が取り出されて「課金判別情報送信手段」によって「ソフトウェア管理センター」に「課金判別情報」が送られる。「ソフトウェア管理センター」に集められた「課金判別情報」は「課金判別情報分別手段」によって同種の判別情報を含んだ「課金判別情報」に分けられる。分けられた「課金判別情報」は「課金判別情報一体化手段」によってひとつの「課金判別情報」にされる。その後ひとつになった「課金判別情報」は、「課金判別情報判別送信手段」によってソフトウェア製作会社を割り出して「課金判別情報」をソフトウェア製作会社へ送信する。尚、識別番号記憶個数変更手段を有するソフトウェアレンタルシステムに「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ホストサーバ」、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、識別番号記憶個数変更手段から直接「課金判別情報」(ソフトウェア使用料、識別番号変更料)をソフトウェア製作会社に送ることができる。(ソフトウェア使用料の支払い)。また、「ホストサーバ」に「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、「ホストサーバ」から直接「課金判別情報」(ソフトウェア使用料、識別番号変更料)をソフトウェア製作会社に送ることができる。

【0051】識別番号記憶個数変更手段を有する中古ソフトウェア販売システムとは、ソフトウェアを買い取り、あるいは販売等するときにソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更するための識別番号記憶個数変更手段を有するシステムである。例えばソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で変更するときに、「課金手段」で識別番号記憶個数変更料金であるソフトウェア使用料を徴収し課金情報として記憶する。「判別情報読み出し手段」でソフトウェアの判別情報を読み出し記憶する。「課金判別手段」で前

記判別情報と前記課金情報をひとつにした課金判別情報にする。課金判別情報は「ホストサーバ」に送られる。

「ホストサーバ」に集まったいろいろな情報の中から「課金判別情報取り出し手段」で「課金判別情報」が取り出されて「課金判別情報送信手段」によって「ソフトウェア管理センター」に「課金判別情報」が送られる。「ソフトウェア管理センター」に集められた「課金判別情報」は「課金判別情報分別手段」によって同種の判別情報を含んだ「課金判別情報」に分けられる。分けられた「課金判別情報」は「課金判別情報一体化手段」によってひとつの「課金判別情報」にされる。その後ひとつになった「課金判別情報」は、「課金判別情報判別送信手段」によってソフトウェア製作会社を割り出して「課金判別情報」をソフトウェア製作会社に送信する。尚、識別番号記憶個数変更手段を有する中古ソフトウェア販売システムに「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ホストサーバ」、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、識別番号記憶個数変更手段から直接「課金判別情報」（ソフトウェア使用料、識別番号変更料）をソフトウェア製作会社に送ることができる。（ソフトウェア使用料の支払い）。また、「ホストサーバ」に「課金判別情報取り出し手段」、「課金判別情報送信手段」、「課金判別情報分別手段」、「課金判別情報一体化手段」、「課金判別情報判別送信手段」を含ませてもよい。その場合、「ソフトウェア管理センター」を経由せずに、「ホストサーバ」から直接「課金判別情報」（ソフトウェア使用料、識別番号変更料）をソフトウェア製作会社に送ることができる。

【0052】「課金判別情報取り出し手段」とは「ホストサーバ」、「ソフトウェア管理センター」等のセンターベース化された各種情報の中から「課金判別情報」を見つけ出す手段、あるいは、取り出す手段である。「課金判別情報取り出し手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金判別情報取り出し手段」を設けてもよい。

【0053】「課金判別情報送信手段」は「ホストサーバ」、「ソフトウェア管理センター」、「ソフトウェア製作会社」等へ「課金判別情報」を送る手段である。また、場合によっては識別番号消去手段でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去した時の消去料（ソフトウェア使用料）あるいは、識別番号記憶個数変更手段でソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更したときの変更料（ソフトウェア使用料）を「ソフトウェア製作会社」あるいは「ホストサーバ」あるいは「ソフトウェア管理センター」等へ支払ったり送る（送

金）手段である。「課金判別情報送信手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金判別情報送信手段」を設けてもよい。

【0054】「課金判別情報分別手段」とは同種の判別情報をもった「課金判別情報」に分別する手段である。例えば、課金情報が400（400円）で判別情報が甲である「課金判別情報甲400」と課金情報が300（300円）で判別情報が甲である「課金判別情報甲300」と課金情報が200（200円）で判別情報が乙である「課金判別情報乙200」と課金情報が100（100円）で判別情報が乙である「課金判別情報乙100」とでは判別情報が異なるので、「課金判別情報」が甲である甲400と甲300、と「課金判別情報」が乙である乙200と乙100に分別される。「課金判別情報分別手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金判別情報分別手段」を設けてもよい。

【0055】「課金判別情報一体化手段」とは同種の判別情報をもった「課金判別情報」をひとつにする手段である。例えば、課金情報が400（400円）で判別情報が甲である「課金判別情報甲400」と課金情報200（200円）で判別情報が甲である「課金判別情報甲200」をたして甲600（600円）にする。（甲400+甲200）「課金判別情報一体化手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金判別情報一体化手段」を設けてもよい。

【0056】「課金判別情報判別送信手段」とは「課金判別情報」に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別し、「課金判別情報」を「ソフトウェア製作会社」あるいは「ホストサーバ」あるいは「ソフトウェア管理センター」等にする手段である。場合によっては、識別番号消去手段でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去した時の消去料（ソフトウェア使用料）あるいは、識別番号記憶個数変更手段でソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更したときの変更料（ソフトウェア使用料）を「ソフトウェア製作会社」あるいは「ホストサーバ」あるいは「ソフトウェア管理センター」等へ支払ったり送る（送金）手段である。

「課金判別情報判別送信手段」はCPUにプログラムされている場合、あるいは、RAM、ROM、ICチップ等にプログラムされている場合がある。また、ソフトウェア（プログラム）に「課金判別情報判別送信手段」を設けてもよい。

【0057】「ホストサーバ」とは、例えばレンタル業者Aの店舗であるA1及びA2があった場合（図示な

し)、A1及びA2に集まる各種情報(会員情報、レンタル履歴等)をひとつにまとめて(センターファイル化する)保管するものである。また、中古ソフト業者Bの店舗であるB1及びB2があった場合、B1及びB2に集まる各種情報(ソフトウェア販売料金等)をひとつにまとめて(センターファイル化する)保管するものである。

【0058】「ソフトウェア管理センター」とは、識別番号消去手段または、識別番号記憶個数変更手段で作られた課金判別情報及びソフトウェア使用料(変更料、消去料)を一括して取り扱うところである。従い、「ソフトウェア管理センター」に集まった課金判別情報をソフトウェア製作会社に送ったり、ソフトウェア使用料をソフトウェア製作会社に支払ったりもする。

【0059】「ソフトウェア製作会社」とはソフトウェアを製作した会社あるいはソフトウェアを製作した個人である。

【0060】この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムは、外部記憶媒体を用いたパソコンのアプリケーションソフト、コンピュータゲーム機のゲームソフト以外にも、音響AV機器等(CDプレーヤ、MP3プレーヤ等)の音楽ソフト(音楽コンテンツ、音楽情報)映像AV機器等(レーザーディスク、DVDプレーヤ等)の映像ソフト(映像コンテンツ、映像情報)に使用することができる。また、ネットワーク上よりダウンロードするあらゆるソフト(アプリケーションソフト、ゲームソフト、映像ソフト、映像コンテンツ、映像情報、音楽ソフト、音楽コンテンツ、音楽情報)、通信及び放送受信端末(携帯電話、携帯情報端末、テレビ、衛星放送受信端末、ケーブルテレビ、DVDプレーヤ等)の音楽ソフト(情報)及び映像ソフト(情報)、放送に使用可能である。

【0061】また、ソフトウェア使用端末固定化システムにおいてテレビ放送や衛星放送、ラジオ放送等(以下放送)をDVDプレーヤ、MP3プレーヤ等の音響機器や映像機器を用いてDVD、MP3、ハードディスク等の記憶媒体に録音あるいは録画する場合の実施例では、録画あるいは録音する時に使用したDVDプレーヤ、MP3プレーヤ等の音響機器や映像機器の識別番号登録手段に登録されている識別番号が放送に付与されてDVDやMP3、CD、ハードディスク等の記憶媒体に記憶あるいは録画あるいは録音される。従い、その放送(記憶媒体に記憶された放送等)を他の音響機器や映像機器で使用しても識別番号が異なるので使用することができない。また、その記憶媒体に記憶された放送を他の外部記憶媒体及びハードディスクにコピーすることは可能であるが、コピーを他の録音及び、録画した以外の音響機器及び映像機器で使用しようとしても識別番号が異なるので使用することはできない。そこでその放送(記憶媒体に記憶された放送等等)を他の映像機器あるいは音響機

器で使用するには、識別番号消去手段を用いた方法と識別番号記憶個数変更手段を用いた方法と補助外部記憶手段を用いた方法がある。識別番号消去手段を用いた方法では放送(記憶媒体に記憶された放送等)に記憶された識別番号を識別番号消去手段で消去して他の映像機器あるいは音響機器の識別番号登録手段に登録されている識別番号を新たに記憶して使用することができる。また識別番号記憶個数変更手段を用いた方法では放送(記憶媒体に記憶された放送等)が記憶できる識別番号の個数を変更して、識別番号を付与した以外の映像機器あるいは音響機器の識別番号登録手段に登録されている識別番号を記憶できるようにして他の映像機器あるいは音響機器で放送(記憶媒体に記憶された放送等)を使用することができる。また、補助外部記憶手段を用いた方法では放送を記憶媒体に録画あるいは録音した映像機器あるいは音響機器の識別番号登録手段に登録されている識別番号を補助外部記憶手段に記憶させる。識別番号を記憶させた補助外部記憶手段を放送(記憶媒体に記憶された放送等)を使用したい映像機器あるいは音響機器に取り付ける(放送が記憶している識別番号とは違う識別番号を持った映像機器あるいは音響機器)。すると外部記憶媒体に記憶されている方法が記憶している識別番号と映像機器あるいは音響機器の識別番号は一致しないが、映像機器あるいは音響機器に取り付けられた補助外部記憶手段が記憶している識別番号とは一致するので放送(記憶媒体に記憶された放送等)を使用することができる。また、場合によっては、放送を記憶媒体に記憶させるときに放送へは識別番号を記憶させずに、放送を記憶あるいは録画あるいは録音する記憶媒体に識別番号を付与させることも可能である。その時は、記憶媒体に識別番号が記憶されているのでその記憶されている識別番号と同じ識別番号を有する音響機器、映像機器等でなければ放送を使用することはできない。

【0062】また、ソフトウェア使用端末固有化システムにおいて携帯情報端末(携帯電話等)でソフト(音楽ソフト、映像ソフト、ゲームソフト等)をダウンロード等する場合の実施例では、携帯情報端末の識別番号登録手段に登録されている識別番号がダウンロード等するソフトに付与される。従い、ダウンロード等を行ったソフトを他の携帯情報端末に送信しても識別番号が異なるので使用することができない。また、ダウンロード等を行ったソフトを外部記憶媒体及びハードディスク及び、ダウンロードした携帯情報端末内にコピーすることは可能であるが、コピーをダウンロードした以外の携帯情報端末、パソコン、音響機器及び映像機器で使用しようとしても識別番号が異なるので使用することはできない。そこでダウンロードしたソフトをダウンロードした携帯情報端末以外の携帯情報端末、パソコン、映像機器あるいは音響機器で使用するには、識別番号消去手段を用いた方法と識別番号記憶個数変更手段を用いた方法と補助外



部記憶手段を用いた方法等がある。識別番号消去手段を用いた方法の一例では、ダウンロードしたソフトに記憶された識別番号を識別番号消去手段で消去してダウンロードした携帯情報端末以外の携帯情報端末、パソコン、映像機器あるいは音響機器の識別番号登録手段に登録されている識別番号を新たに記憶して使用することができる。また識別番号記憶個数変更手段を用いた方法の一例では、ダウンロードしたソフトの記憶できる識別番号の個数を変更して、ダウンロードした携帯情報端末以外の携帯情報端末、パソコン、映像機器あるいは音響機器の識別番号登録手段に登録されている識別番号を記憶できるようにしてダウンロードした携帯情報端末以外の携帯情報端末、パソコン、映像機器あるいは音響機器でダウンロードしたソフトを使用することができる。また、補助外部記憶手段を用いた方法の一例では、ソフトをダウンロードした携帯情報端末の識別番号登録手段に登録されている識別番号を補助外部記憶手段に記憶させる。識別番号を記憶した補助外部記憶手段をダウンロードしたソフトを使用したい携帯情報端末、パソコン、映像機器あるいは音響機器に取り付ける（ダウンロードしたソフトが記憶している識別番号とは違う識別番号を持った映像機器あるいは音響機器）。するとダウンロードしたソフトが記憶している識別番号と映像機器あるいは音響機器の識別番号は一致しないが、映像機器あるいは音響機器に取り付けられた補助外部記憶手段が記憶している識別番号とは一致するのでダウンロードしたソフトを使用することができる。

#### 【0063】

【実施例】図1において、1はコンピュータゲーム機であり、そのCPUに、「ソフトウェアを読み出す読み出し手段」、「識別情報付与手段」、「読み出し抑止手段」、「識別番号登録手段」がプログラムされている。また、2はゲームソフトの記憶されているCD-ROMである。3はモニター（テレビ）、4はモニター3とコンピュータゲーム機1とを繋ぐケーブル、5はネットワークとコンピュータゲーム機10とを繋ぐケーブル（オンライン）である。6はCD-ROMの挿入口である。67は補助外部記憶手段（以下メモリーカード）であり、コンピュータゲーム機1に着脱可能である。

【0064】次に、図4のフローチャートに従ってこのシステムの実施例を説明するが、本発明はこの実施例に限定されるものではない。尚、図4のフローチャートに示す本体とはゲーム機あるいはパソコンのことである。

【0065】STEP1でシステムをスタートさせる。STEP2でCD-ROM（ゲームソフトウェア、以下ソフトウェア）をゲーム機（「パソコン」、以下同じ）にセットすると、このCD-ROMに識別番号（識別情報）が書き込まれているか否かがSTEP3で判断されて、識別番号が書き込まれていない場合には、STEP10に進みこのゲーム機の識別番号を書き込むか否かが

判断される。識別番号を書き込まない場合にはSTEP14に進みソフトウェアは実行不可となり終了する。一方、STEP10で識別番号の書き込みを選択した場合はSTEP11で「識別番号登録手段」に登録されている識別番号が「識別情報付与手段」によってソフトウェアに識別番号が書き込まれ、STEP13でソフトウェアが実行される。STEP3で識別番号が書き込まれている場合には、STEP4でそのソフトウェアの識別番号が「ソフトウェアを読み出す読み出し手段」で読み取られ、STEP5でこのゲーム機の識別番号と一致するか否かが「識別番号照合手段」にて判断される。一致した場合にはSTEP8に進みゲームソフトが実行される。一方、一致しない場合には、STEP6でゲーム機にメモリーカードがこのゲーム機にセットされているか否かが判断される。メモリーカードがセットされていない場合には、STEP12に進みソフトウェアは実行不可となり、終了する。一方、STEP6でメモリーカードがセットされている場合には、STEP7でメモリーカードに記憶されている識別番号とソフトウェアの識別番号が一致するか否かが「識別番号照合手段」にて判断される。そして、一致しない場合には、STEP12に進みソフトウェアは実行不可となり終了する。一方、一致する場合にはSTEP8に進みソフトウェアが実行される。

【0066】次に、コンピュータゲーム機本体に補助記憶媒体を装着する機能が備わっていない場合について図23のフローチャートで説明が、本発明はこの実施例に限定されるものではない。尚、図23のフローチャートに示す本体とはゲーム機あるいはパソコンのことである。

【0067】STEP15でシステムをスタートさせる。STEP16でCD-ROM（ゲームソフトウェア、以下ソフトウェア）をゲーム機（「パソコン」、以下同じ）にセットすると、このCD-ROMに識別番号（識別情報）が書き込まれているか否かがSTEP17で判断されて、識別番号が書き込まれていない場合には、STEP22に進みこのパソコンの識別番号を書き込むか否かが判断される。識別番号を書き込まない場合にはSTEP25に進み、ソフトウェアは実行不可となり終了する。一方、STEP22で識別番号の書き込みを選択した場合はSTEP23で「識別番号登録手段」に登録されている識別番号が「識別情報付与手段」によってソフトウェアに識別番号が書き込まれ、STEP24に進みソフトウェアが実行される。STEP17でソフトウェアに識別番号が書き込まれている場合には、STEP18でそのゲームソフトの識別番号が「ソフトウェアを読み出す読み出し手段」で読み取られ、STEP19でこのゲーム機の識別番号と一致するか否かが「識別番号照合手段」で判断される。一致した場合にはSTEP20に進みソフトウェアが実行される。一方、一



致しない場合には、STEP 21でソフトウェアは実行不可となり終了する。

【0068】図24のフローチャートで図1のコンピュータゲーム機10の識別番号登録手段に登録されている識別番号を67の補助外部記憶手段（以下メモリーカード）に記憶させる実施例を説明するが、本発明はこの実施例に限定するものではない。

【0069】STEP 27でシステムをスタートさせる。STEP 28でメモリーカードをコンピュータゲーム機に装着する。次にSTEP 29でメモリーカードに識別番号を記憶させるか否かを選択する（判断する）。記憶させる場合は、STEP 30でコンピュータゲーム機の識別番号登録手段に登録されている識別番号をメモリーカードに記憶して、STEP 31でシステムが終了する。STEP 29でメモリーカードに識別番号を記憶させない場合はSTEP 31に進みシステムが終了する。

【0070】次にソフトウェアの使用端末固定化システムにおいてソフトウェアを複製（以下コピー）する場合について図25のフローチャートで説明するが、本発明はこの実施例に限定するものではない。

【0071】STEP 32でシステムをスタートさせる。STEP 33でソフトウェアをコピーするか否かを選択する。コピーしない場合はSTEP 36に進みシステムが終了する。一方、コピーする場合は、STEP 34でソフトウェアに識別番号が記憶されているか否かが判断される。ソフトウェアに識別番号が記憶されていない場合はSTEP 36に進みシステムが終了する（ソフトウェアがコピーできない）。一方、STEP 34でソフトウェアに識別番号が記憶されている場合は、STEP 35に進みソフトウェアがコピーされる。ソフトウェアがコピーされた後、STEP 36に進みシステムが終了する。

【0072】図2において、7は識別番号記憶部個数変更装置であり6はCD-ROMの挿入口であり2はCD-ROMであり9はネットワークあるいはオンライン等につながるケーブルである。図5のフローチャートに従ってこの識別番号記憶部個数変更装置の一実施例を説明するが、本発明はこの実施例に限定されるものではない。尚、図5のフローチャートに示す本体とは識別番号記憶個数変更手段のことである。

【0073】STEP 37でシステムをスタートさせる。次にSTEP 38に進み識別番号記憶部個数を変更したいソフトウェアを識別番号記憶個数変更機7に挿入する。次にSTEP 39でソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更するか否かが判断される。変更しない場合にはSTEP 46に進みシステムが終了する。一方、変更する場合には、STEP 40に進みソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を何個にするか指定する。次にSTEP 41に進み識別

番号記憶個数変更手段でソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数をSTEP 40で指定された個数に変更する。次にSTEP 42に進み課金手段でソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更した個数に応じた変更料（ソフトウェア使用料）を受け取り課金情報として記憶する。次にSTEP 43に進み判別情報読み出し手段でソフトウェアの判別情報を読み出す。次にSTEP 44に進み課金判別手段で判別情報と課金手段に記憶されている課金情報から課金判別情報を作成する。次にSTEP 45に進み課金判別情報送信手段で課金判別情報をもとに変更料（ソフトウェア使用料）がオンライン等でソフトウェア製作会社等（ソフトウェア管理センター、ホストサーバ）に支払われる（ソフトウェア使用料の支払い、送金）。次にSTEP 46に進みプログラムの終了

【0074】尚、図2の識別番号記憶個数変更装置及び、図5のフローチャートでは識別番号記憶個数変更装置に判別情報読み出し手段、課金手段、課金判別手段を備えていたが、備えないことも可能である。

【0075】また、図2の識別番号記憶個数変更装置及び、図5の識別番号記憶個数変更装置のフローチャートでは、課金判別情報分別手段、課金判別情報一体化手段、課金判別情報判別送信手段を含んでいないが、含ませることも可能である（図示なし）。その場合は、図5のSTEP 44の課金判別手段で作成された課金判別情報として例えば、課金情報は200（200円）で判別情報は甲である課金判別情報甲200と、課金情報は300（300円）で判別情報は甲である課金判別情報甲300と、課金情報は200（200円）で判別情報は乙である課金判別情報乙200と、課金情報は300（300円）で判別情報は乙である課金判別情報乙300の4種類（甲200、甲300、乙200、乙300）があると仮定すると課金判別情報分別手段で同じ判別情報を持っている課金判別情報ごとに分別される。従い、甲を判別情報に持つ甲200と甲300、乙を判別情報に持つ乙200と乙300に分別される。次に課金判別情報一体化手段で同じ判別情報を持った課金判別情報をひとつの課金判別情報にする。従い、判別情報が甲である甲200と甲300が甲500（甲200+甲300=甲500）になり、判別情報が乙である乙200と乙300が乙500（乙200+乙300=乙500）になる。次に課金判別情報判別送信手段で課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別して課金判別情報（甲500、乙500）をソフトウェア製作会社に送られる。また、識別番号変更料（ソフトウェア使用料、500円）がソフトウェア製作会社（甲、乙）に支払われる。

【0076】また、図2の識別番号記憶個数変更装置において、ソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記

憶部」を図2の識別番号記憶個数変更装置で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにしても良い。

【0077】図3において、8は識別番号消去装置であり6はCD-ROMの挿入口であり2はCD-ROMであり9はネットワークあるいはオンライン等につながるケーブルである。図6のフローチャートに従ってこのシステムの一実施例を説明するが、本発明はこの実施例に限定されるものではない。尚、図6のフローチャートに示す本体とは識別番号消去装置のことである。

【0078】STEP47でシステムをスタートさせる。次にSTEP48でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去したいソフトウェアを識別番号消去機に挿入する。次にSTEP49でソフトウェアの識別番号を消去するか否かが判断される。消去しない場合にはSTEP55に進みプログラムが終了する。一方、消去する場合には、STEP50に進み識別番号消去手段でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去する。次にSTEP51に進み課金手段でソフトウェアに記憶されていた識別番号を消去したときの消去料（ソフトウェア使用料）を受け取り課金情報として記憶する。次にSTEP52に進み判別情報読み出し手段でソフトウェアの班別情報を読み出す。次にSTEP53に進み課金判別手段で判別情報と課金手段に記憶されている課金情報から課金判別情報を作成する。次にSTEP54に進み課金判別情報送信手段で課金判別情報をもとに消去料（ソフトウェア使用料）がオンラインでソフトウェア製作会社に支払われる。（ソフトウェア使用料の支払い、送金）次にSTEP55に進みプログラムの終了

【0079】尚、図3の識別番号消去装置及び、図5のフローチャートでは識別番号消去装置に判別情報読み出し手段、課金手段、課金判別手段を備えていたが、備えないことも可能である。

【0080】また、図3の識別番号消去装置及び、図5の識別番号消去装置のフローチャートでは、課金判別情報分別手段、課金判別情報一体化手段、課金判別情報判別送信手段を含んでいないが、含ませることも可能である（図示なし）。その場合は、図5のSTEP53の課金判別手段で作成された課金判別情報として例えば、課金情報は200（200円）で判別情報は甲である課金判別情報甲200と、課金情報は300（300円）で判別情報は甲である課金判別情報甲300と、課金情報は200（200円）で判別情報は乙である課金判別情報乙200と、課金情報は300（300円）で判別情報は乙である課金判別情報乙300の4種類（甲200、甲300、乙200、乙300）があると仮定すると、課金判別情報分別手段で同じ判別情報を持っている課金判別情報ごとに分別される。従い、甲を判別情報に

持つ甲200と甲300、乙を判別情報に持つ乙200と乙300に分別される。次に課金判別情報一体化手段で同じ判別情報を持った課金判別情報をひとつの課金判別情報にする。従い、判別情報が甲である甲200と甲300が甲500（ $\text{甲}200 + \text{甲}300 = \text{甲}500$ ）になり、判別情報が乙である乙200と乙300が乙500（ $\text{乙}200 + \text{乙}300 = \text{乙}500$ ）になる。次に課金判別情報判別送信手段で課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別して課金判別情報がソフトウェア製作会社に送られる。また、識別番号消去料（ソフトウェア使用料）がソフトウェア製作会社等（ソフトウェア管理センター、ホストサーバ）に支払われる。

【0081】また、図3の識別番号消去装置において、ソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を図3の識別番号消去装置で消去しても良い。

【0082】ソフトウェア使用端末固有化システムにおいてソフトウェアを貸し出し及び譲り渡すときは、すでにソフトウェアには貸し出す側もしくは譲り渡す側のゲーム機の識別番号がソフトウェアに記憶されている場合等があるので、そのままではソフトウェアを借りる側もしくは貰う側のゲーム機では使用できない。ただし、識別番号記憶個数変更手段を用いた方法と識別番号消去手段を用いた方法と補助外部記憶手段を用いた方法を使えば借りる側もしくは貰う側のゲーム機で借りるもしくは貰うソフトウェアを使用することが可能である。その方法を図7、図8、図9を基に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。また、ソフトウェアを貸し出し及び、譲り渡す手段としては外部記憶媒体に記憶されているソフトウェアを渡す場合とネットワークを利用して送信あるいは配信する方法があるが本発明はこれらに限定されるものではない。

【0083】図7、図8、図9では人間11がゲームソフト制作会社10からゲームソフトを購入する。人間11が人間11所有のゲーム機A12でゲームソフトを使用する場合は、人間11の所有するゲーム機A12の識別番号AAをゲームソフトに記憶されねばならない。一度ゲームソフトに人間11所有のゲーム機A12の識別番号AAを記憶させれば人間11は人間11所有のゲーム機A12でゲームソフトを繰り返し何度も使用することができる。しかし、ゲーム機A12以外のゲーム機ではゲームソフトを使用することができないので、人間11が人間14にゲームソフトを貸し出しあるいは譲り渡す場合は、識別番号記憶個数変更手段（識別番号記憶個数変更装置等）を用いた方法と識別番号消去手段（識別番号消去装置等）を用いた方法と補助外部記憶手段（メモリーカード等）を用いた方法がある。それらの方法を図7、図8、図9を基に説明するが、本発明はこれら実

施例に限定されるものではない。

【0084】識別番号記憶個数変更手段（識別番号記憶個数変更装置又はネットワーク上の識別番号記憶個数変更手段をもったホームページ等）を用いた方法の実施例である図7で説明すると、ゲームソフトを貸す側である人間11あるいはゲームソフトを借りる側である人間14が識別番号記憶個数変更手段13を用いてゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更する。識別番号記憶個数変更手段13ではゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更し、変更した数だけの対価を受け取る。（増やしたときは増やした数だけの対価を受け取る）受け取った対価はゲームソフト製作会社10に支払われる。また、識別番号記憶個数変更手段13に判別情報読み出し手段及び、課金手段が組み込まれている場合には、判別情報読み出し手段でゲームソフトに記憶されたゲームソフト製作会社10の判別情報を読み取り、課金手段でソフトウェアの記憶できる識別番号の個数を変更したときに受け取った変更料（ソフトウェア使用料）を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報にする。前記課金判別情報をもとにオンライン等でソフトウェア製作会社10にソフトウェア使用料を支払う。これらの作業から識別番号記憶個数変更手段13によってゲームソフトが記憶できる識別番号の個数が変更されているので人間14所有のゲーム機B15の識別番号BBをゲームソフトに記憶させてゲームソフトを使用することができる。また、ゲームソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにしても良い。

【0085】識別番号消去手段（識別番号消去装置又は、ネットワーク上の識別番号消去手段を持ったホームページ等）を用いた方法の実施例である図8で説明すると、ゲームソフトを貸す側である人間11あるいは、ゲームソフトを借りる側である人間14が識別番号消去手段16を用いてゲームソフトに記憶されているゲーム機A12の識別番号AAを消去したときにその対価を受け取る。受け取った対価はゲームソフト会社10に支払われる。また、識別番号消去手段16に判別情報読み出し手段及び、課金手段、課金判別手段が組み込まれている場合には、判別情報読み出し手段でゲームソフトに記憶されたゲームソフト製作会社10の判別情報を読み取り、課金手段でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去したときに受け取った消去料（ソフトウェア使用料）を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報にする。前記課金判別情報をもとにオンライン等でソフトウェア製作会社10にソフトウェア使用料を支払う。これらの作業から

識別番号消去手段16によってゲームソフトに記憶されていたゲーム機A12の識別番号AAが消去されているので、人間14所有のゲーム機B15の識別番号BBをゲームソフトに記憶させてゲームソフトを使用することができる。また、ゲームソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を消去しても良い。

【0086】補助外部記憶手段（以下メモリーカード）を用いた方法の実施例である図9で説明すると、ゲームソフトを貸す側である人間11が所有するゲーム機A12の識別番号AAをメモリーカードに記憶させてゲームソフトと共に識別番号AAの記憶されたメモリーカードをソフトウェアを借りる側である人間14に貸し出す。ゲームソフトを借りる側である人間14が所有するゲーム機B15の識別番号はBBであるのでゲームソフトに記憶されているAAと一致しない。従い、人間14はゲームソフトを使用することができない。しかし、ゲームソフトを貸す側である人間11から借用した識別番号AAの記憶されたメモリーカードを用いれば（メモリーカードをゲーム機B15に装着する）ゲームソフトに記憶された識別番号AAとゲーム機B15に装着されたメモリーカードに記憶されている識別番号AAが一致するのでゲームソフトをゲームソフトを借りる側である人間14の所有するゲーム機B15で使用することができる。

【0087】ソフトウェア使用端末固有化システムにおいて中古ソフトウェアを売買するときは、識別番号記憶個数変更手段を用いた方法と識別番号消去手段を用いた方法と補助記憶手段を用いた方法などがある。それらの方法を図10、図11、図12を基に説明するが本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0088】実施例図10、図11、図12では人間11がゲームソフト製作会社10からゲームソフトを購入する。人間11が人間11所有のゲーム機A12でゲームソフトを使用する場合は、人間11の所有するゲーム機A12の識別番号AAをゲームソフトに記憶されねばならない。一度ゲームソフトに人間11所有のゲーム機A12の識別番号AAを記憶させれば人間11は人間11所有のゲーム機A12でゲームソフトを繰り返し何度も使用することができる。しかし、ゲーム機A12以外のゲーム機ではゲームソフトを使用することができない。そこでゲーム機A12の識別番号AAが記憶されたゲームソフトを売買する場合（中古ソフト等の売買）、図10に示す識別番号記憶個数変更手段を用いた方法と図11に示す識別番号消去手段を用いた方法と図12に示す補助外部記憶手段（メモリーカード等）を用いた方法などがある。

【0089】識別番号記憶個数変更手段（識別番号記憶個数変更装置等又はネットワーク上の識別番号記憶個数変更手段をもったホームページ等）を用いた方法の実施

例である図10で説明すると、人間11が中古ソフト業者17にゲームソフトを販売（下取り）する場合は、中古ソフト業者17あるいは人間11が識別番号記憶個数変更手段13を用いてゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更する。識別番号記憶個数変更手段13ではゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更し、ゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更した数だけの対価を受け取る。受け取った対価はゲームソフト製作会社10に支払われる。また、識別番号記憶個数変更手段13に判別情報読み出し手段及び、課金手段及び、課金判別手段が組み込まれている場合では、判別情報読み出し手段でゲームソフトに記憶されたゲームソフト製作会社10の判別情報を読み取り、課金手段でソフトウェアの記憶できる識別番号の個数を変更したときに受け取った変更料（ソフトウェア使用料）を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報として前記課金判別情報をもとにオンライン等でソフトウェア製作会社10にソフトウェア使用料を支払う。人間14が中古ソフト業者17からゲームソフトを購入した場合は、ゲームソフトにはゲーム機A12の識別番号が記憶されているが、ゲームソフトが記憶できる識別番号の個数が識別番号記憶部個数変更手段13によって変更されているので、人間14所有のゲーム機B15の識別番号BBをゲームソフトが記憶できるようになるので、人間14所有のゲーム機B15でゲームソフトを使用することができる。先の説明で人間11及び、中古ソフト業者17が識別番号記憶個数変更手段13でゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更したが人間14がゲームソフト購入時に識別番号記憶個数変更手段13を用いてゲームソフトが記憶できる識別番号の個数を変更してもよい。また、ゲームソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにしても良い。

【0090】識別番号消去手段（識別番号消去装置又は、ネットワーク上の識別番号消去手段を持ったホームページ等）を用いた方法の実施例である図11で説明すると、人間11が中古ソフト業者17にゲームソフトを販売（下取り）する場合は、中古ソフト業者17（中古卸業者）あるいは人間11が識別番号消去手段16を用いてゲームソフトに記憶されている識別番号AAを消去する。識別番号消去手段16では、ゲームソフトに記憶されている識別番号AAを消去し、その対価を受け取る。受け取った対価はゲームソフト製作会社10に支払われる。また、識別番号消去手段16に判別情報読み出し手段及び、課金手段及び、課金判別手段が組み込まれている場合では、判別情報読み出し手段でゲームソフト

に記憶されたゲームソフト製作会社10の判別情報を読み取り、課金手段でソフトウェアに記憶されている識別番号を消去したときに受け取った消去料（ソフトウェア使用料）を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報として前記課金判別情報をもとにオンライン等でソフトウェア製作会社10にソフトウェア使用料を支払う。これらの作業から、人間14が中古ソフト業者17からゲームソフトを購入した場合において、ゲームソフトに記憶されていたゲーム機A12の識別番号AAは識別番号消去手段16によってすでに消去されているので、人間14所有のゲーム機B15の識別番号BBをゲームソフトに記憶させてゲームソフトを使用することができる。先の説明で人間11及び、中古ソフト業者17（中古卸業者）がゲームソフトに記憶されていたゲーム機A12の識別番号AAを識別番号消去手段16によって消去したが、人間14がゲームソフト購入時に識別番号消去手段16を用いてゲームソフトに記憶されていたゲーム機A12の識別番号AAを消去してもよい。また、ゲームソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を消去しても良い。

【0091】補助外部記憶手段（以下メモリーカード）を用いた方法の実施例である図12で説明すると、人間11が所有するゲーム機A12の識別番号AAをメモリーカードに記憶させてゲームソフトと共に識別番号AAの記憶されたメモリーカードを中古ソフト業者17に売る。中古ソフト業者17（中古卸業者）はゲームソフトと共に識別番号AAの記憶されたメモリーカードを人間14に売る。人間14が買ったゲームソフトを使用する場合、人間14が所有するゲーム機B15の識別番号BBであるのでゲームソフトに記憶されているAAと一致しないためにゲームソフトを使用することができないが、識別番号AAの記憶されたメモリーカードを用いれば（メモリーカードをゲーム機B15に装着）ゲームソフトに記憶された識別番号AAとゲーム機B15に装着されたメモリーカードの識別番号AAが一致するのでゲームソフトを人間14の所有するゲーム機B15で使用することができる。

【0092】ソフトウェア使用端末固有化システムにおいてレンタル業者がソフトウェアを貸し借りするときには、識別番号記憶個数変更手段を用いた方法と識別番号消去手段を用いた方法と補助記憶手段を用いた方法などがある。それらの方法を図13、図14、図15を基に説明するが本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0093】識別番号記憶個数変更手段（識別番号記憶個数変更装置又はネットワーク上の識別番号記憶個数変更手段をもったホームページ等）を用いた方法の実施例である図13で説明すると、レンタル業者19が映像ソ

フト製作会社20から映像ソフトを購入する。レンタル業者19が映像ソフトを人間11に貸し出す場合、レンタル業者19あるいは人間11が、人間11が所有しているDVDプレーヤAの識別番号AAを記憶するために識別番号記憶個数変更手段13で映像ソフトが記憶できる識別番号の個数を変更する。識別番号記憶個数変更手段13は映像ソフトが記憶できる識別番号の個数を変更するときにその対価を受け取る。受け取った対価は映像ソフト製作会社20に支払われる。また、識別番号記憶個数変更手段13に判別情報読み出し手段及び、課金手段及び、課金判別手段が組み込まれている場合では、判別情報読み出し手段で映像ソフトに記憶された映像ソフト製作会社20の判別情報を読み取り、課金手段で映像ソフトの記憶できる識別番号の個数を変更したときに受け取った変更料(映像ソフト使用料)を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報として前記課金判別情報をもとにオンライン等で映像ソフト製作会社20に映像ソフト使用料を支払う。これらの作業から人間11が借りた映像ソフトはすでに識別番号記憶個数変更手段13にて記憶できる識別番号の個数が増やされているので、人間11所有のDVDプレーヤA18の識別番号AAをレンタル業者19から借りた映像ソフトに記憶させることで人間11所有のDVDプレーヤA18で使用することができる。また、識別番号記憶個数変更手段での映像ソフトの記憶できる識別番号の個数の変更は、映像ソフトを借りる者、映像ソフトを返却する者、レンタル業者のいずれが行っても良い。また、映像ソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにも良い。

【0094】識別番号消去手段(識別番号消去装置又は、ネットワーク上の識別番号消去手段を持ったホームページ等)を用いた方法の実施例である図14で説明すると、レンタル業者19が映像ソフト製作会社20から映像ソフトを購入する。レンタル業者19が映像ソフトを人間11に貸し出しする場合、レンタル業者19あるいは人間11あるいは人間11より先に映像ソフトを借りた者が、映像ソフトに記憶されている人間11より先に映像ソフトを借りた者の所有するDVDプレーヤの識別番号を識別番号消去手段16によって消去する。識別番号消去手段16は映像ソフトに記憶されている識別番号を消去するときにその対価を受け取る。受け取った対価は映像ソフト製作会社20に支払われる。また、識別番号消去手段16に判別情報読み出し手段及び、課金手段及び、課金判別手段が組み込まれている場合では、判別情報読み出し手段でゲームソフトに記憶された映像ソ

フト製作会社20の判別情報を読み取り、課金手段で映像ソフトに記憶されている識別番号を消去したときに受け取った消去料(映像ソフト使用料)を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報として前記課金判別情報をもとにオンライン等で映像ソフト製作会社20に映像ソフト使用料を支払う。これらの作業から人間11が借りた映像ソフトには人間11より先に借りた者の所有するDVDプレーヤの識別番号が識別番号消去手段16によって消去されているので人間11所有のDVDプレーヤA18の識別番号AAをレンタル業者19から借りた映像ソフトに記憶させることで人間11所有のDVDプレーヤA18で映像ソフトを使用することができる。また、映像ソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を識別番号消去手段で消去しても良い。

【0095】補助外部記憶手段(以下メモリーカード)を用いた方法の実施例である図15で説明すると、レンタル業者19は映像ソフトに記憶されている識別番号と同じ識別番号が記憶されているメモリーカードを映像ソフトと共に人間11に貸し出す。人間11が人間11所有のDVDプレーヤA18に映像ソフトとメモリーカードをセット(装着)する。映像ソフトに記憶されている識別番号とメモリーカードに記憶されている識別番号は同じであるので人間11所有のDVDプレーヤA18で映像ソフトを使用することができる。人間11が映像ソフトをレンタル業者19に返却するときは、映像ソフトとメモリーカードをレンタル業者19に返却する。先の説明でレンタル業者19がメモリーカードを人間11に貸し出すと説明したが、人間11が所有しているメモリーカードに映像ソフトに記憶されている識別番号と同じ識別番号を記憶させてもよい。そうすれば、レンタル業者19はメモリーカードを貸し出す手間を省くことができる。

【0096】ソフトウェア使用端末固有化システムにおいてネットワーク上よりダウンロードするソフトウェア(コンテンツ)を貸し出しする時や譲り渡す時、既にネットワーク上よりダウンロードした際に使用したパソコンの識別番号がソフトウェアには付与されているので、そのままでは借りる側もしくは貰う側のパソコン等では使用できない。但し、識別番号記憶個数変更手段(識別番号記憶個数変更装置又はネットワーク上の識別番号記憶個数変更手段を持ったホームページ等)を用いた方法と識別番号消去手段(識別番号消去装置、又はネットワーク上の識別番号消去手段を持ったホームページ等)を用いた方法と補助外部記憶手段(以下メモリーカード)を使った方法を用いれば借りる側もしくは貰う側のパソコンで使用が可能である。その方法を図16、図17、図18を基に説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。尚ネットワーク上よりダウンロー

ドするソフトウェアを貸し出し及び譲り渡す手段としてはソフトウェアを外部記憶媒体に記憶させる場合とネットワークを利用して送信及び配信する方法があるが本発明はこれらに限定されるものではない。

【0097】図16、図17、図18では、人間11が人間11所有のパソコンA22でネットワーク上の音楽配信用ホームページ21からダウンロードした音楽ソフトを使用する場合は、人間11の所有するパソコンA22の識別番号AAを音楽ソフトに記憶させねばならない。音楽配信用ホームページ21からダウンロードした音楽ソフトへの識別番号の記憶はダウンロード前のホームページ上でも可能であるし、ダウンロード中でも可能であるし、ダウンロード後のパソコン等でも可能であり本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。音楽ソフトに人間11所有のパソコンA22の識別番号AAを記憶させれば人間11は人間11所有のパソコンA22で音楽ソフトを何度も使用することができ、パソコンのハードディスクにバックアップとしてコピーが可能であるし、DVD、CD、MO等の外部記憶媒体にバックアップとしてコピーをすることが可能である。但し、音楽ソフトにはパソコンA22の識別番号AAが記憶されているので、電子メール等で音楽ソフトを第三者に配信しても人間11所有のパソコンA22以外では音楽ソフトを使用できない。音楽ソフトを人間11がホームページにアップロードして第三者がその音楽ソフトをダウンロードしても人間11所有のパソコンA22以外では音楽ソフトを使用できない。外部記憶媒体（以下DVD）にコピーした音楽ソフトを第三者に貸し出し及び譲り渡しても人間11所有のパソコンA22以外では音楽ソフトを使用できない。人間11が人間14に音楽ソフトを貸し出し及び譲り渡す場合、識別番号記憶個数変更手段（識別番号記憶部個数変更装置又はネットワーク上の識別番号記憶個数変更手段を持ったホームページ等）を用いた方法と識別番号消去手段（識別番号消去装置、又はネットワーク上の識別番号消去手段を持ったホームページ等）を用いた方法と補助外部記憶手段（以下メモリーカード）を用いた方法がある。それらの方法を図16、図17、図18を基に説明するが本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0098】識別番号記憶個数変更手段（識別番号記憶部個数変更装置又はネットワーク上の識別番号記憶個数変更手段を持ったホームページ等）を用いた方法を図16で説明すると、音楽ソフトを貸す側である人間11あるいは音楽ソフトを借りる側である人間14が識別番号記憶個数変更手段13を用いて音楽ソフトが記憶できる識別番号の個数を変更する。識別番号記憶個数変更手段13では音楽ソフトが記憶できる識別番号の個数を変更し、変更した数だけの対価を受け取る。受け取った対価は音楽配信用ホームページ21（音楽ソフト製作会社）に支払われる。また識別番号記憶個数変更手段13に判

別情報読み出し手段及び、課金手段及び、課金判別手段が組み込まれている場合では、判別情報読み出し手段で音楽ソフトに記憶された音楽配信用ホームページ21

（音楽ソフト製作会社）の判別情報を読み取り、課金手段で音楽ソフトの記憶できる識別番号の個数を変更したときに受け取った変更料（音楽ソフト使用料）を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報として前記課金判別情報をもとにオンライン等で音楽配信用ホームページ21（音楽ソフト製作会社）に音楽ソフト使用料を支払う。これらの作業から識別番号記憶個数変更手段によって音楽ソフトが記憶できる識別番号の個数変更されているので人間14が所有しているパソコンB23の識別番号BBを音楽ソフトに記憶させて音楽ソフトをパソコンB23で使うことが出来る。また、音楽ソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにしても良い。

【0099】識別番号消去手段（識別番号消去装置、又はネットワーク上の識別番号消去手段を持ったホームページ等）を用いた方法である図17で説明すると、音楽ソフトを貸す側である人間11あるいは音楽ソフトを借りる側である人間14が識別番号消去手段16を用いて音楽ソフトに記憶されているパソコンA22の識別番号AAを消去する。識別番号消去手段16では音楽ソフトに記憶されているパソコンA22の識別番号AAを消去した時にその対価を受け取る。受け取った対価はオンライン等で音楽配信用ホームページ21（音楽ソフト製作会社）に支払われる。また、識別番号消去手段16に判別情報読み出し手段及び、課金手段及び、課金判別手段が組み込まれている場合では、判別情報読み出し手段で音楽ソフトに記憶された音楽配信用ホームページ21

（音楽ソフト製作会社）の判別情報を読み取り、課金手段で音楽ソフトに記憶されている識別番号を消去したときに受け取った消去料（音楽ソフト使用料）を課金情報として記憶して、前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段で課金判別情報として前記課金判別情報をもとにオンライン等で音楽配信用ホームページ21（音楽ソフト製作会社）に音楽ソフト使用料を支払う。これらの作業から識別番号消去手段によって音楽ソフトに記憶されていたパソコンA22の識別番号AAが消去されているので、人間14所有のパソコンB23の識別番号BBを音楽ソフトに記憶させて音楽ソフトを使用することが出来る。また、映像ソフトに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を識別番号消去手段で消去しても良い。

【0100】補助外部記憶手段（以下メモリーカード）を用いた方法である図18で説明すると、音楽ソフトを貸す側である人間11が所有するパソコンA22の識別番号AAを補助外部記憶手段（以下メモリーカード）に記憶させて音楽ソフトと共に識別番号AAの記憶されたメモリーカードをソフトを借りる側である人間14に貸し出す。ソフトを借りる側である人間14が所有するパソコンB23の識別番号はBBであるので音楽ソフトに記憶されているAAと一致しないため音楽ソフトを使用することは出来ない。しかし、ソフトを貸す側である人間11から借用した識別番号AAの記憶されたメモリーカードを用いれば（メモリーカードをパソコンBに差し込む）、音楽ソフトに記憶された識別番号AAとパソコンB23に差し込まれたメモリーカードの識別番号AAが一致するので音楽ソフトをソフトを借りる側である人間14の所有するパソコンB23で使用することが出来る。

【0101】図30のフローチャートで図1のコンピュータゲーム機10の識別番号登録手段に登録されている識別番号をコンピュータゲーム機10以外の機器に複製（コピー）する実施例を説明するが、本発明はこの実施例に限定されるものではない。

【0102】STEP56でシステムをスタートさせる。次にSTEP57で識別番号を複製するか否かを選択する（判断する）。複製する場合は、STEP58でコンピュータゲーム機の識別番号登録手段に登録されている識別番号を複製して、STEP59でシステムが終了する。STEP57で複製しない場合はSTEP59に進みシステムが終了する。

【0103】識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタル装置について図26で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。ソフトウェアを借りる者のレンタル会員カードを会員カード挿入口71に入れる。尚、会員カードには会員を識別する会員番号が記憶されている。その会員カードに記憶されている会員番号から会員情報記憶装置等に記憶されている会員カード所有者（ソフトウェアを借りる者）のレンタル履歴、会員情報（氏名、住所、年齢、性別等）が読み出されディスプレイ69に表示される。次に、借りたいソフトウェアをソフトウェア挿入口68に入れる。識別番号消去手段でそのソフトウェアに記憶されている識別番号を消去する。判別情報読み出し手段でソフトウェアに記憶されているソフトウェア制作会社を判別する判別情報を読み出す。次に、ソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分、識別番号消去料）を合計したレンタル料金（ソフトウェア貸し出し料金+ソフトウェア使用料=レンタル料金）がディスプレイ69に表示されるので、表示されたレンタル料金（ソフトウェア貸し出し料金+ソフトウェア使用料=レンタル料金）を現金挿入口70に

入れる。次に課金手段でレンタル料金からソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）を徴収する

（課金情報とする）。前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段でひとつの情報である課金判別情報にする。次に課金判別情報送信手段で前記課金判別情報がソフトウェア制作会社へオンライン等で送られるし（ソフトウェア使用料が支払われる）、レンタル履歴、会員情報、ソフトウェア貸し出し料金はオンライン等でレンタル業者のホストサーバに送られる。

【0104】また、図26の識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタル装置では課金手段、判別情報読み出し手段、課金手段、課金判別手段、課金判別情報送信手段を備えていたが、備えないことも可能である。

【0105】また、図26の識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタル装置に課金判別情報分別手段、課金判別情報一体化手段、課金判別情報判別送信手段を含ませてもよい。その場合は、課金判別手段で作成された課金判別情報として例えば、課金情報は200（200円）で判別情報は甲である課金判別情報甲200と、課金情報は300（300円）で判別情報は甲である課金判別情報甲300と、課金情報は200（200円）で判別情報は乙である課金判別情報乙200と、課金情報は300（300円）で判別情報は乙である課金判別情報乙300の4種類（甲200、甲300、乙200、乙300）があると仮定すると、課金情報判別情報分別手段で同じ判別情報を持っている課金判別情報ごとに分別される。従い、甲を判別情報に持つ甲200と甲300、乙を判別情報に持つ乙200と乙300に分別される。次に課金判別情報一体化手段で同じ判別情報を持った課金判別情報をひとつの課金判別情報にする。従い、判別情報が甲である甲200と甲300が甲500（甲200+甲300=甲500）になり、判別情報が乙である乙200と乙300が乙500（乙200+乙300=乙500）になる。次に課金判別情報判別送信手段で課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別して課金判別情報をソフトウェア製作会社に送られるし、識別番号消去料（ソフトウェア使用料）がソフトウェア製作会社に支払われる。従い、課金判別情報判別送信手段では課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲500と乙500に含まれている判別情報である甲及び、乙からソフトウェア製作会社である甲と乙を判別して、ソフトウェア製作会社甲には課金判別情報甲500を送る（500円の支払う）。そして、ソフトウェア製作会社乙に課金判別情報乙500を送る（500円を支払う）。また、レンタルを行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタル装置で消去しても良い。

【0106】識別番号記憶個数変更手段を備えたソフト



ウェアレンタル装置について図27で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。ソフトウェアを借りる者のレンタル会員カードを会員カード挿入口71に入れる。尚、会員カードには会員を識別する会員番号が記憶されている。その会員カードに記憶されている会員番号から会員情報記憶装置等に記憶されている会員カード所有者（ソフトウェアを借りる者）のレンタル履歴、会員情報（氏名、住所、年齢、性別等）が読み出されディスプレイ69に表示される。次に、借りたいソフトウェアをソフトウェア挿入口68に入れる。識別番号記憶個数変更手段でそのソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更し、判別情報読み出し手段でソフトウェアに記憶されているソフトウェア制作会社を判別する判別情報を読み出す。次に、ソフトウェア貸し出し料金（レンタル業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分、記憶個数変更料）を合計したレンタル料金（ソフトウェア貸し出し料金＋ソフトウェア使用料＝レンタル料金）がディスプレイに表示されるので、表示されたレンタル料金（ソフトウェア貸し出し料金＋ソフトウェア使用料＝レンタル料金）を現金挿入口70に入れる。次に課金手段でレンタル料金からソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）を徴収する（課金情報とする）。前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段でひとつの情報である課金判別情報にする。次に課金判別情報送信手段で前記課金判別情報がソフトウェア制作会社へオンライン等で送られるし（ソフトウェア使用料が支払われる）、レンタル履歴、会員情報、ソフトウェア貸し出し料金がオンライン等でレンタル業者のホストサーバに送られる。

【0107】また、図27の識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタル装置では課金手段、判別情報読み出し手段、課金手段、課金判別手段、課金判別情報送信手段を備えていたが、備えないことも可能である。

【0108】また、図27の識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタル装置に課金判別情報分別手段、課金判別情報一体化手段、課金判別情報判別送信手段を含ませてもよい。その場合は、課金判別手段で作成された課金判別情報として例えば、課金情報は200（200円）で判別情報は甲である課金判別情報甲200と、課金情報は300（300円）で判別情報は甲である課金判別情報甲300と、課金情報は200（200円）で判別情報は乙である課金判別情報乙200と、課金情報は300（300円）で判別情報は乙である課金判別情報乙300の4種類（甲200、甲300、乙200、乙300）があると仮定すると、課金情報判別情報分別手段で同じ判別情報を持っている課金判別情報ごとに分別される。従い、甲を判別情報に持つ甲200と甲300、乙を判別情報に持つ乙200と乙300に分別される。次に課金判別情報一体化手段で同じ判別情

報を持った課金判別情報をひとつの課金判別情報にする。従い、判別情報が甲である甲200と甲300が甲500（甲200＋甲300＝甲500）になり、判別情報が乙である乙200と乙300が乙500（乙200＋乙300＝乙500）になる。次に課金判別情報判別送信手段で課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア制作会社を判別して課金判別情報をソフトウェア制作会社に送られるし、識別番号変更料（ソフトウェア使用料）がソフトウェア制作会社に支払われる。従い、課金判別情報判別送信手段では課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲500と乙500に含まれている判別情報である甲及び、乙からソフトウェア制作会社である甲と乙を判別して、ソフトウェア制作会社甲には課金判別情報甲500を送る（500円の支払う）。そして、ソフトウェア制作会社乙に課金判別情報乙500を送る（500円を支払う）また、レンタルを行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタル装置で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにも良い。

【0109】識別番号消去手段を備えた中古ソフトウェア販売装置について図28で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。購入したいソフトウェア（中古ソフト）をソフトウェア挿入口68に入れる。識別番号消去手段でそのソフトウェアに記憶されている識別番号を消去し、判別情報読み出し手段でソフトウェアに記憶されているソフトウェア制作会社を判別する判別情報を読み出す。次に、ソフトウェア販売料金（中古ソフト業者の取り分）とソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分、識別番号消去料）を合計した中古ソフト料金（ソフトウェア販売料金＋ソフトウェア使用料＝中古ソフト料金）がディスプレイ69に表示されるので、表示された中古ソフト料金（ソフトウェア販売料金＋ソフトウェア使用料＝中古ソフト料金）を現金挿入口70に入れる。次に課金手段で中古ソフト料金からソフトウェア使用料（ソフトウェア制作会社の取り分）を徴収する（課金情報とする）。前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段でひとつの情報である課金判別情報にする。次に課金判別情報送信手段で前記課金判別情報がソフトウェア制作会社へオンライン等で送られるし（ソフトウェア使用料が支払われる）、ソフトウェア販売料金（中古ソフト卸業者の取り分）がオンライン等で中古ソフト卸業者のホストサーバに送られる（ソフトウェア販売料金の支払い）。

【0110】また、図28の識別番号消去手段を備えた中古ソフトウェア販売装置では課金手段、判別情報読み出し手段、課金手段、課金判別手段、課金判別情報送信



手段を備えていたが、備えないことも可能である。

【0111】また、図28の識別番号消去手段を備えた中古ソフトウェア販売装置に課金判別情報分別手段、課金判別情報一体化手段、課金判別情報判別送信手段を含ませてもよい。その場合は、課金判別手段で作成された課金判別情報として例えば、課金情報は200(200円)で判別情報は甲である課金判別情報甲200と、課金情報は300(300円)で判別情報は甲である課金判別情報甲300と、課金情報は200(200円)で判別情報は乙である課金判別情報乙200と、課金情報は300(300円)で判別情報は乙である課金判別情報乙300の4種類(甲200、甲300、乙200、乙300)があると仮定すると、課金情報判別情報分別手段で同じ判別情報を持っている課金判別情報ごとに分別される。従い、甲を判別情報に持つ甲200と甲300、乙を判別情報に持つ乙200と乙300に分別される。次に課金判別情報一体化手段で同じ判別情報を持った課金判別情報をひとつの課金判別情報にする。従い、判別情報が甲である甲200と甲300が甲500(甲200+甲300=甲500)になり、判別情報が乙である乙200と乙300が乙500(乙200+乙300=乙500)になる。次に課金判別情報判別送信手段で課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別して課金判別情報をソフトウェア製作会社に送られるし、識別番号消去料(ソフトウェア使用料)がソフトウェア製作会社に支払われる。従い、課金判別情報判別送信手段では課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲500と乙500に含まれている判別情報である甲及び、乙からソフトウェア製作会社である甲と乙を判別して、ソフトウェア製作会社甲には課金判別情報甲500を送る(500円の支払う)。そして、ソフトウェア製作会社乙に課金判別情報乙500を送る(500円を支払う)。また、中古販売を行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である

「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を識別番号消去手段を備えた中古ソフトウェア販売装置で消去しても良い。

【0112】識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフトウェア販売装置について図29で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。購入したいソフトウェア(中古ソフト)をソフトウェア挿入口68に入れる。識別番号記憶個数変更手段でそのソフトウェアが記憶することのできる識別番号の個数を変更し、判別情報読み出し手段でソフトウェアに記憶されているソフトウェア制作会社を判別する判別情報を読み出す。次に、ソフトウェア販売料金(中古ソフト業者の取り分)とソフトウェア使用料(ソフトウェア制作会社の取り分、記憶個数変更料)を合計した中古ソフト料金(ソフトウェア販売料金+ソフトウェア使用料=中古ソフト料金)がディスプレイ69に表示されるので、表示された

中古ソフト料金(ソフトウェア販売料金+ソフトウェア使用料=中古ソフト料金)を現金挿入口70に入れる。次に課金手段で中古ソフト料金からソフトウェア使用料(ソフトウェア制作会社の取り分)を徴収する(課金情報とする)。前記判別情報と前記課金情報を課金判別手段でひとつの情報である課金判別情報にする。次に課金判別情報送信手段で前記課金判別情報がソフトウェア制作会社へオンライン等で送られるし(ソフトウェア使用料が支払われる)、ソフトウェア販売料金(中古ソフト卸業者の取り分)がオンライン等で中古ソフト卸業者のホストサーバに送られる(ソフトウェア販売料金の支払い)。

【0113】また、図29の識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフトウェア販売装置では課金手段、判別情報読み出し手段、課金手段、課金判別手段、課金判別情報送信手段を備えていたが、備えないことも可能である。

【0114】また、図29の識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフトウェア販売装置に課金判別情報分別手段、課金判別情報一体化手段、課金判別情報判別送信手段を含ませてもよい。その場合は、課金判別手段で作成された課金判別情報として例えば、課金情報は200(200円)で判別情報は甲である課金判別情報甲200と、課金情報は300(300円)で判別情報は甲である課金判別情報甲300と、課金情報は200(200円)で判別情報は乙である課金判別情報乙200と、課金情報は300(300円)で判別情報は乙である課金判別情報乙300の4種類(甲200、甲300、乙200、乙300)があると仮定すると、課金情報判別情報分別手段で同じ判別情報を持っている課金判別情報ごとに分別される。従い、甲を判別情報に持つ甲200と甲300、乙を判別情報に持つ乙200と乙300に分別される。次に課金判別情報一体化手段で同じ判別情報を持った課金判別情報をひとつの課金判別情報にする。従い、判別情報が甲である甲200と甲300が甲500(甲200+甲300=甲500)になり、判別情報が乙である乙200と乙300が乙500(乙200+乙300=乙500)になる。次に課金判別情報判別送信手段で課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別して課金判別情報をソフトウェア製作会社に送られるし、識別番号変更料(ソフトウェア使用料)がソフトウェア製作会社に支払われる。従い、課金判別情報判別送信手段では課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲500と乙500に含まれている判別情報である甲及び、乙からソフトウェア製作会社である甲と乙を判別して、ソフトウェア製作会社甲には課金判別情報甲500を送る(500円の支払う)。そして、ソフトウェア製作会社乙に課金判別情報乙500を送る(500円を支払う)。また、中古販売を行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の

領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフトウェア販売装置で増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにしても良い。

【0115】識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムについて図19で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。人間24がレンタル店α40にソフトZ32を返却する。そのソフトZ32には人間24所有のDVDプレーヤ67の識別番号AAとソフトウェア製作会社を判別する判別情報甲が記憶されている。人間24がレンタル店α40に返却したソフトZ32をレンタル店α40から人間28が借りるとき、人間28がレンタル店α40にソフト貸し出し料（レンタル料金情報）を支払い、人間28が所有する会員カードをレンタル店α40に渡す。そのときに、ソフトZ32に記憶されている識別番号AAを識別番号消去手段で消去して、課金手段でソフト貸し出し料（レンタル料金情報）からソフトウェア使用料である400円を徴収してその情報を課金情報として記憶する。次に判別情報読み出し手段でソフトZ32の判別情報甲を読み出す。次に課金判別手段で課金手段に記憶されている課金情報と判別情報読み出し手段で読み出された判別情報から課金判別情報甲400（400円）を作る。そして、人間28の会員カードから人間28のレンタル履歴情報が読み出される。そして、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報甲400（400円）がオンライン等でα系列のレンタル業者αホストサーバー44に集められる。人間25がソフトY33をレンタル店α41に返却した後ソフトYを人間29が借りるときもレンタル店α40の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が300円（課金情報300）であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙300（300円）となり、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報乙300がオンラインでα系列のレンタル業者αホストサーバー44に集められる。人間26がソフトX34をレンタル店β42に返却した後ソフトX34を人間30が借りるときもレンタル店α1の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が200円（課金情報200）であり判別情報は甲であるので課金判別情報は甲200（200円）となり、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報甲200がオンラインでβ系列のレンタル業者βホストサーバー45に集められる。人間27がソフトW35をレンタル店β43に返却した後ソフトW35を人間31が借りるときもレンタル店α40の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が100円（課金情報100）であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙100（100円）となり、レンタル料金情報、レンタル

履歴情報、課金判別情報乙100がオンラインでβ系列のレンタル業者βホストサーバー45に集められる。レンタル店α40、α41の課金判別情報はα系列のレンタル業者αホストサーバー44に集められる。レンタル店β42、β43の課金判別情報はβ系列のレンタル業者βホストサーバー45に集められる。ホストサーバに集められた各種情報（レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報）の中で課金判別情報は課金判別情報取り出し手段によってホストサーバに集められた各種情報（レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報）の中から取り出され、課金判別情報送信手段によってソフトウェア管理センター46にオンラインで送られる。図19ではα系列のレンタル業者αホストサーバー44に集められた課金判別情報甲400及び乙300がソフトウェア管理センター46に送られ、β系列のレンタル業者βホストサーバー45に集められた課金判別情報甲200及び乙100がソフトウェア管理センター46に送られる。ソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報は、課金判別情報分別手段によって課金判別情報に含まれる同じ判別情報を含んだ課金判別情報ごとに分けられる。分けられた課金判別情報は課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報にされる。図19の実施例ではソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報である甲400、乙300、甲200、乙100は課金判別情報分別手段によって甲を判別情報にする甲400と甲200、乙を判別情報にする乙300と乙100に分けられ、課金判別情報一体化手段で甲400と甲200が一体化され甲600（600円）となり（甲400+甲200=甲600）、乙300と乙100が一体化され（乙300+乙100=乙400）乙400（400円）となる。ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段で一体化された課金判別情報は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別しオンライン等でソフトウェア製作会社に課金判別情報が送られ、ソフトウェア使用料がソフトウェア製作会社にオンライン等で支払われる。図19の実施例ではソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲600は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報甲からソフトウェア製作会社甲47が判別され、課金判別情報である甲600がオンライン等でソフトウェア製作会社甲47に送られ、ソフトウェア使用料600円がソフトウェア製作会社甲47にオンライン等で支払われる。また、ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった乙400は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報乙からソフトウェア製作会社乙48が判別され課金判別情報である乙400がオンライン等でソフトウェア製作会社乙48に送られ、ソフトウェ

ア使用料400円がソフトウェア製作会社乙48にオンライン等で支払われる。また、図19の実施例では、ソフトウェア使用料(ソフトウェア製作会社の取り分)及び、課金判別情報はレンタル業者のホストサーバ及び、ソフトウェア管理センターを経由してソフトウェア製作会社に支払われたり、送られたりしたが、課金判別情報取り出し手段あるいは、課金判別情報送信手段あるいは、課金判別情報分別手段あるいは、課金判別情報一体化手段あるいは、課金判別情報判別送信手段を用いて、レンタル店あるいは、レンタル業者のホストサーバから直接、ソフトウェア製作会社にソフトウェア使用料の支払い、あるいは、課金判別情報の送付を行っても良い。また、レンタルを行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムで消去しても良い。

【0116】識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムについて図20で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。人間24がレンタル店α49にソフトZ32を返却する。そのソフトZ32には人間24所有のDVDプレーヤ67の識別番号AAとソフトウェア制作会社を判別する判別情報の甲が記憶されている。人間24がレンタル店α49に返却したソフトZ32を人間28がレンタル店α49から借りるとき、人間28がレンタル店α49にソフト貸し出し料(レンタル料金情報)を支払い、人間28が所有する会員カードをレンタル店α49に渡す。そのときに、ソフトZ32が記憶できる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で増やす。次に課金手段でソフト貸し出し料(レンタル料金情報)からソフトウェア使用料(記憶個数変更料、ソフトウェア製作会社の取り分)である400円を徴収してその情報を課金情報として記憶する。次に判別情報読み出し手段でソフトZ32の判別情報である甲を読み出す。次に課金判別手段で課金手段に記憶されている課金情報と判別情報読み出し手段で読み出された判別情報から課金判別情報である甲400を作る。そして、人間28の会員カードから人間28のレンタル履歴情報が読み出される。そして、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報である甲400がオンライン等でα系列のレンタル業者αホストサーバ44に集められる。人間25がソフトY33をレンタル店α50に返却した後ソフトY33を人間29が借りるときもレンタル店α49の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が300円(課金情報300)であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙300となり、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報である乙300がオンラインでα系列のレンタル業者αホストサーバ44に集められる。人間26がソフトX34をレンタル店β51に返却した後、ソ

フトX34を人間30が借りるときもレンタル店α49の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が200円(課金情報200)であり判別情報は甲であるので課金判別情報は甲200となり、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報である甲200がオンライン等でβ系列のレンタル業者βホストサーバ45に集められる。人間27がソフトW35をレンタル店β52に返却した後、ソフトW35を人間31が借りるときもレンタル店α49の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が100円(課金情報100)であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙100となり、レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報である乙100がオンライン等でβ系列のレンタル業者βホストサーバ45に集められる。レンタル店α49、α50の課金判別情報はα系列のレンタル業者αホストサーバ44に集められる。レンタル店β51、β52の課金判別情報はβ系列のレンタル業者βホストサーバ45に集められる。ホストサーバに集められた各種情報(レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報)の中で課金判別情報は課金判別情報取り出し手段によってホストサーバに集められた各種情報(レンタル料金情報、レンタル履歴情報、課金判別情報)の中から取り出され、課金判別情報送信手段によってソフトウェア管理センター46にオンライン等で送られる。図20ではα系列のレンタル業者αホストサーバ44に集められた課金判別情報甲400及び乙300がソフトウェア管理センター46に送られ、β系列のレンタル業者βホストサーバ45に集められた課金判別情報甲200及び乙100がソフトウェア管理センター46に送られる。ソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報は、課金判別情報分別手段によって課金判別情報に含まれる同じ判別情報を含んだ課金判別情報ごとに分けられる。分けられた課金判別情報は課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報にされる。図20の実施例ではソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報である甲400、乙300、甲200、乙100は課金判別情報分別手段によって甲を判別情報にする甲400と甲200、乙を判別情報にする乙300と乙100に分けられ、課金判別情報一体化手段で甲400と甲200が一体化され甲600(600円)となり(甲400+甲200=甲600)、乙300と乙100が一体化され乙400(400円)となる(乙300+乙100=乙400)。ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段で一体化された課金判別情報は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別しオンライン等でソフトウェア製作会社に課金判別情報が送られ、ソフトウェア使用料がソフトウェア製作会社にオンライン等で支払われる。図20の実施例ではソフトウェア管理センター46の課金判別情報一

体化手段でひとつの課金判別情報になった甲600は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報甲からソフトウェア製作会社甲47が判別され、課金判別情報である甲600がオンライン等でソフトウェア製作会社甲47に送られ、ソフトウェア使用料600円がソフトウェア製作会社甲47にオンライン等で支払われる。また、ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった乙400は課金判別情報に含まれる判別情報乙からソフトウェア製作会社乙48が判別され課金判別情報である乙400が課金判別情報送信手段によってオンライン等でソフトウェア製作会社乙48に送られ、ソフトウェア使用料400円がソフトウェア製作会社乙48にオンライン等で支払われる。また、図20の実施例では、ソフトウェア使用料(ソフトウェア製作会社の取り分)及び、課金判別情報はレンタル業者のホストサーバ及び、ソフトウェア管理センターを経由してソフトウェア製作会社に支払われたり、送られたりしたが、課金判別情報取り出し手段あるいは、課金判別情報送信手段あるいは、課金判別情報分別手段あるいは、課金判別情報一体化手段あるいは、課金判別情報判別送信手段を用いて、レンタル店あるいは、レンタル業者のホストサーバから直接、ソフトウェア製作会社にソフトウェア使用料の支払いあるいは、課金判別情報の送付を行っても良い。また、レンタルを行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムで増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにしても良い。

【0117】識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムについて図21で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。人間24が中古ソフト店α40にソフトZ32を売る。そのソフトZ32には人間24所有のDVDプレーヤ67の識別番号AAとソフトウェア制作会社を判別する判別情報である甲が記憶されている。人間24が中古ソフト店α40に売ったソフトZ32を人間28が中古ソフト店α40から購入するとき、人間28が中古ソフト店α40に中古ソフトウェア料金(中古ソフト料金情報)を支払う。そのときに、ソフトZ32に記憶されている識別番号AAを識別番号消去手段で消去する。次に課金手段で中古ソフトウェア料金(中古ソフト料金情報)からソフトウェア使用料である400円を徴収してその情報を課金情報として記憶する。次に判別情報読み出し手段でソフトZ32の判別情報である甲を読み出す。次に課金判別手段で課金手段に記憶されている課金情報と判別情報読み出し手段で読み出された判別情報から課金判別情報甲400を作る。そして、中古ソフト料金情報、課金判別情報である甲4

00がオンラインでα系列の中古ソフト業者αホストサーバー61に集められる。人間25がソフトY33を中古ソフト店α41に売った後にソフトY33を人間29が買うときも中古ソフト店α40の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が300円(課金情報300)であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙300となり、中古ソフト料金情報、課金判別情報の乙300がオンライン等でα系列の中古ソフト業者αホストサーバー61に集められる。人間26がソフトX34を中古ソフト店β42に売った後にソフトX34を人間30が買うときも中古ソフト店α40の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が200円(課金情報200)であり判別情報は甲であるので課金判別情報は甲200となり、中古ソフト料金情報、課金判別情報の甲200がオンライン等でβ系列の中古ソフト業者βホストサーバー62に集められる。人間27がソフトW35を中古ソフト店β43に売った後にソフトW35を人間31が買うときも中古ソフト店α40の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が100円(課金情報100)であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙100となり、中古ソフト料金情報、課金判別情報の乙100がオンライン等でβ系列の中古ソフト業者βホストサーバー62に集められる。中古ソフト店α40、α41の課金判別情報はα系列の中古ソフト業者αホストサーバー61に集められる。中古ソフト店β42、β43の課金判別情報はβ系列の中古ソフト業者βホストサーバー62に集められる。ホストサーバに集められた各種情報(中古ソフト料金情報、課金判別情報)の中で課金判別情報は課金判別情報取り出し手段によってホストサーバに集められた各種情報(中古ソフト料金情報、課金判別情報)の中から取り出され、課金判別情報送信手段によってソフトウェア管理センター46にオンライン等で送られる。図21ではα系列の中古ソフト業者αホストサーバー61に集められた課金判別情報甲400及び乙300がソフトウェア管理センター46に送られ、β系列の中古ソフト業者βホストサーバー62に集められた課金判別情報甲200及び乙100がソフトウェア管理センター46に送られる。ソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報は、課金判別情報分別手段によって課金判別情報に含まれる同じ判別情報を含んだ課金判別情報ごとに分けられる。分けられた課金判別情報は課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報にされる。図21の実施例ではソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報である甲400、乙300、甲200、乙100は課金判別情報分別手段によって甲が判別情報である甲400と甲200、乙が判別情報である乙300と乙100に分けられ、課金判別情報一体化手段で甲400と甲200が一体化され甲600(600円)となり(甲400+甲200=甲600)、乙300と乙1

00が一体化され乙400(400円)となる(乙300+乙100=乙400)。ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段で一体化された課金判別情報は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別しオンライン等でソフトウェア製作会社に課金判別情報が送られ、ソフトウェア使用料がソフトウェア製作会社にオンライン等で支払われる。図21の実施例ではソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲600は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報甲からソフトウェア製作会社甲47が判別され、課金判別情報である甲600がオンライン等でソフトウェア製作会社甲47に送られ、ソフトウェア使用料600円がソフトウェア製作会社甲47にオンライン等で支払われる。また、ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった乙400は課金判別情報に含まれる判別情報乙からソフトウェア製作会社乙48が判別され課金判別情報である乙400が課金判別情報送信手段によってオンライン等でソフトウェア製作会社乙48に送られ、ソフトウェア使用料400円がソフトウェア製作会社乙48にオンライン等で支払われる。また、図21の実施例では、ソフトウェア使用料(ソフトウェア製作会社の取り分)及び、課金判別情報は中古ソフト業者のホストサーバ及び、ソフトウェア管理センターを経由してソフトウェア製作会社に支払われたり、送られたりしたが、課金判別情報取り出し手段あるいは、課金判別情報送信手段あるいは、課金判別情報分別手段あるいは、課金判別情報一体化手段あるいは、課金判別情報判別送信手段を用いて、中古ソフト店あるいは、中古ソフト業者のホストサーバから直接、ソフトウェア製作会社にソフトウェア使用料の支払いあるいは、課金判別情報の送付を行っても良い。また、中古販売を行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、その「識別番号記憶部」に記憶されている識別番号を識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムで消去しても良い。

【0118】識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムについて図22で説明するが本発明はこの実施例に限定されるものではない。人間24が中古ソフト店α63にソフトZ32を売る。そのソフトZ32には人間24所有のDVDプレーヤ67の識別番号Aとソフトウェア制作会社を判別する判別情報である甲が記憶されている。人間24が中古ソフト店α63に売ったソフトZ32を人間28が中古ソフト店α63から購入するとき、人間28が中古ソフト店α63に中古ソフトウェア料金(中古ソフト料金情報)を支払う。そのときに、ソフトZ32が記憶できる識別番号の個数を識別番号記憶個数変更手段で増やす。次に課金手段で中古

ソフトウェア料金(中古ソフト料金情報)からソフトウェア使用料である400円を徴収してその情報を課金情報として記憶する。次に判別情報読み出し手段でソフトZ32の判別情報甲を読み出す。課金判別手段で課金手段に記憶されている課金情報と判別情報読み出し手段で読み出された判別情報から課金判別情報甲400(400円)を作る。そして、中古ソフト料金情報、課金判別情報である甲400がオンライン等でα系列の中古ソフト業者αホストサーバ61に集められる。人間25がソフトY33を中古ソフト店β64に売った後、ソフトY33を人間29が買うときも中古ソフト店α63の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が300円(課金情報300)であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙300となり、中古ソフト料金情報、課金判別情報乙300がオンライン等でβ系列の中古ソフト業者αホストサーバ61に集められる。人間26がソフトX34を中古ソフト店β65に売った後、ソフトX34を人間30が買うときも中古ソフト店α63の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が200円(課金情報200)であり判別情報は甲であるので課金判別情報は甲200となり、中古ソフト料金情報、課金判別情報甲200がオンライン等でβ系列の中古ソフト業者βホストサーバ62に集められる。人間27がソフトW35を中古ソフト店β66に売った後、ソフトW35を人間31が買うときも中古ソフト店α63の時と同様に課金判別情報が作られるがソフトウェア使用料が100円(課金情報100)であり判別情報は乙であるので課金判別情報は乙100となり、中古ソフト料金情報、課金判別情報乙100がオンライン等でβ系列の中古ソフト業者βホストサーバ62に集められる。中古ソフト店α63、α64の課金判別情報はα系列の中古ソフト業者αホストサーバ61に集められる。中古ソフト店β65、β66の課金判別情報はβ系列の中古ソフト業者βホストサーバ62に集められる。ホストサーバに集められた各種情報(中古ソフト料金情報、課金判別情報)の中で課金判別情報は課金判別情報取り出し手段によってホストサーバに集められた各種情報(中古ソフト料金情報、課金判別情報)の中から取り出され、課金判別情報送信手段によってソフトウェア管理センター46にオンライン等で送られる。図22ではα系列の中古ソフト業者αホストサーバ61に集められた課金判別情報の甲400及び乙300がソフトウェア管理センター46に送られ、β系列の中古ソフト業者βホストサーバ62に集められた課金判別情報の甲200及び乙100がソフトウェア管理センター46に送られる。ソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報は、課金判別情報分別手段によって課金判別情報に含まれる同じ判別情報を含んだ課金判別情報ごとに分けられる。分けられた課金判別情報は課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報にさ

れる。図22の実施例ではソフトウェア管理センター46に集められた課金判別情報である甲400、乙300、甲200、乙100は課金判別情報分別手段によって甲を判別情報にする甲400と甲200、乙を判別情報にする乙300と乙100に分けられ、課金判別情報一体化手段で甲400と甲200が一体化され甲600(600円)となり(甲400+甲200=甲600)、乙300と乙100が一体化され乙400(400円)となる(乙300+乙100=乙400)。ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段で一体化された課金判別情報は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報からソフトウェア製作会社を判別しオンライン等でソフトウェア製作会社に課金判別情報が送られ、ソフトウェア使用料がソフトウェア製作会社にオンライン等で支払われる。図22の実施例ではソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった甲600は課金判別情報判別送信手段によって課金判別情報に含まれる判別情報甲からソフトウェア製作会社甲47が判別され、課金判別情報である甲600がオンライン等でソフトウェア製作会社甲47に送られ、ソフトウェア使用料600円がソフトウェア製作会社甲47にオンライン等で支払われる。また、ソフトウェア管理センター46の課金判別情報一体化手段でひとつの課金判別情報になった乙400は課金判別情報に含まれる判別情報乙からソフトウェア製作会社乙48が判別され課金判別情報である乙400が課金判別情報送信手段によってオンライン等でソフトウェア製作会社乙48に送られ、ソフトウェア使用料400円がソフトウェア製作会社乙48にオンライン等で支払われる。図22の実施例では、ソフトウェア使用料(ソフトウェア製作会社の取り分)及び、課金判別情報は中古ソフト業者のホストサーバ及び、ソフトウェア管理センターを経由してソフトウェア製作会社に支払われたり、送られたりしたが、課金判別情報取り出し手段あるいは、課金判別情報送信手段あるいは、課金判別情報分別手段あるいは、課金判別情報一体化手段あるいは、課金判別情報判別送信手段を用いて、中古ソフト店あるいは、中古ソフト業者のホストサーバから直接、ソフトウェア製作会社にソフトウェア使用料の支払いあるいは、課金判別情報の送付を行っても良い。また、中古販売を行うソフトウェアに識別番号を記憶する専用の領域である「識別番号記憶部」がある場合は、「識別番号記憶部」を識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムで増やして「識別番号記憶部」を複数にして識別番号が複数記憶できるようにしても良いし、1つの「識別番号記憶部」に複数の識別番号を記憶することができるようにも良い。

#### 【0119】

【発明の効果】この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムにおいては、固有の識別番号の登録され

た識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えているため、当該ソフトの記憶されたソフトウェアを初めて読みだすときは前記ソフトウェアに、前記識別番号登録手段に登録された識別番号を付与され、2度目に読みだすときから前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しが抑止されるものである。また識別番号が付与されていないソフトウェアはコピーを制限するかあるいはコピーができないようにするかのいずれか一方又は、両方を有することが特徴でもある。

【0120】さらに、この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムにおいては、固有の識別番号の登録された識別番号登録手段と、ソフトウェアを読み出す読み出し手段と、この読み出し手段によって前記ソフトウェアを初めて読みだすときに、前記識別番号登録手段に登録された識別番号を前記ソフトウェアに付与する識別番号付与手段と、前記識別番号登録手段に登録された識別番号が記憶された補助外部記憶手段と前記読み出し手段によって前記ソフトウェアを再度読みだすときに前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記補助外部記憶手段に記憶された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しを抑止する読み出し抑止手段とを備えているため当該ソフトの記憶されたソフトウェアを初めて読みだすときに前記識別番号登録手段に登録された識別番号が前記ソフトウェアに付与され2度目に読みだすときから前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記識別番号登録手段に登録された識別番号とを照合して両者が一致しないときには前記ソフトウェアに記憶された識別番号と前記補助外部記憶手段に記憶された識別番号とを照合して両者が一致しないときには読み出しが抑止されるものである。また識別番号が付与されていないソフトウェアはコピーを制限するかあるいはコピーができないようにするかのいずれか一方又は、両方を有することが特徴でもある。尚、識別番号登録手段に登録されている識別番号を補助外部記憶手段に記憶させる方法の一例として、識別番号登録手段に登録された識別番号を補助外部記憶媒体に複製する等がある。

【0121】即ち、コンピュータにソフトをインストールする場合やネットワーク上のソフトをダウンロードす

る場合は識別番号がソフトの一部としてコンピュータに記憶されるので、コンピュータに記憶されたソフトを外部記憶媒体にコピーしてもソフトの一部として識別番号がコピーされるので他のコンピュータでは外部記憶媒体にコピーしたソフトを読みだすことは出来ない。コンピュータに記憶されたソフトをネットワークを通して他のコンピュータに転送してもソフトの一部として識別番号が転送されるので他のコンピュータでは転送されたソフトを読みだすことはできないが、まだ識別番号が付与されていないソフトウェアをコピーできるようにしてしまうと、まだ識別番号が記憶されていないソフトウェアの不正コピーが横行する危険性があるので、まだ識別番号が記憶されていないソフトウェアはコピーを制限するかあるいはコピーができないようにしなければならない。

【0122】よって、このソフトウェアの使用端末固定化システムを使用すれば、当該ソフトに記憶された外部記憶媒体や当該ソフトの記憶されたネットワークの上よりダウンロードするソフトは、最初に読み出した読み出し手段以外には読みだすことができないため、正当な対価を払わない者の不正使用及び不正コピーや中古ソフトの再使用などを防止することができ、ひいては、著作権の保護に貢献するものである。

【0123】さらにこのソフトウェアの使用端末固定化システムを使用すれば、前記補助外部記憶手段を有する限り、当該ソフトの記憶された外部記憶媒体を、最初に読み出した読み出し手段以外でも読みだすことができるため、その使用範囲は拡大する。

【0124】また、ソフトウェアに記憶された識別番号を識別番号消去手段によって消去すれば、新たに別の識別番号を前記ソフトウェアに記憶させることができるので、当該ソフトウェアを当初読みだした読み出し手段以外の読み出し手段によって読みだすことができるものである。この識別番号消去手段をレンタル業者の使用するレンタルシステムに組み込めば、ソフトウェアを貸し出すたびにソフトウェアに記憶された識別番号を消去して、そのときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料、対価）をソフトウェア製作者は回収できる。また、中古のソフトウェアを販売する場合も中古ソフトウェアに記憶された識別番号を消去するときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料、対価）をソフトウェア製作者は回収できる。

【0125】また、識別番号記憶部個数変更手段でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を複数にすれば、当該ソフトウェアを複数の読み出し手段によって読みだすことができるものである。この識別番号記憶個数変更手段をレンタル業者の使用するレンタルシステムに組み込めば、ソフトウェアを貸し出すたびにソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更（増やす）して、そのときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料）をソフトウェア製作者は回収できる。

また、中古のソフトウェアを販売する場合も中古ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を変更（増やす）するときにソフトウェア使用料等（著作権料、著作権使用料、頒布権料）をソフトウェア製作者は回収できる。

【0126】ソフトウェア（外部記憶媒体、ハードディスク等に記憶されている）が記憶できる識別番号の個数及び、ネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアが記憶できる識別番号の個数は原則として一つであるが、ソフト製作時に「識別番号記憶個数変更手段」でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、ソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を複数にすれば複数の読み出し手段によって読みだすことができる。ソフトウェア製作後も「識別番号記憶個数変更手段」を使ってソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。場合によっては、外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア製作後も外部記憶媒体に記憶されているソフトウェア購入時に購入者側でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。ネットワーク上のソフトウェア製作後もネットワーク上よりダウンロードするソフトウェアが記憶できる識別番号の個数をダウンロード時（購入時）にダウンロード者側（購入者側）でソフトウェアが記憶できる識別番号の個数を適宜調整でき、複数にすれば複数の読み出し手段によって読み出すことができる。

【0127】さらに、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号を別の機器に複製することを特徴にしているので、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号が識別番号付与手段で付与されたソフトウェアを識別番号を付与した以外の機器で使用する場合は、その使用する機器に識別番号を複製する。するとソフトウェアに付与されている識別番号と、ソフトウェアを使用する機器に複製された識別番号が一致するのでソフトウェアを使用することができる。但し、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号の複製を制限しなければ識別番号を不正に複製することによりソフトウェアの不正使用が行われる可能性がある。そこで、請求項3では、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号の複製を制限することを特徴としている。制限の方法としては、例えば、複製回数の制限、あるいは、複製する機器の制限等がある。

【0128】また、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号を別の機器に複製することを特徴にしているので、レンタル業者等がソフトウェアを貸し出す場合に、貸し出すソフトウェアに記憶されている識別番号をソフトウェアを借りる者がソフトウェアを使用する機器にその識別番号を複製すればソフトウェアを



使用することができるので、ソフトウェアの識別番号を消去したり、ソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更（増やす）したりする必要がなくなる。

【0129】また、請求項3のソフトウェアの使用端末固定化システムは、識別番号登録手段に登録されている固有の識別番号を別の機器に複製することを特長にしているので、中古ソフト業者等が中古ソフトウェアを販売する場合に、販売するソフトウェアに記憶されている識別番号をソフトウェアを購入する者がソフトウェアを使用する機器にその識別番号を複製すればソフトウェアを使用することができるので、ソフトウェアの識別番号を消去したり、ソフトウェアが記憶することができる識別番号の個数を変更（増やす）したりする必要がなくなる。

【0130】また、識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料（レンタル業者の取り分）を徴収することができる。また、レンタル業者はソフトウェア使用料をソフトウェアを借りる者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことができ、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号記憶個数変更手段を備えたソフトウェアレンタルシステムを使用すれば、ソフトウェアの貸出しあるいは、返却等を自動化（無人化等）することができる。

【0131】また、識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料（レンタル業者の取り分）を徴収することができる。また、レンタル業者はソフトウェア使用料をソフトウェアを借りる者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことができ、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号消去手段を備えたソフトウェアレンタルシステムを使用すれば、ソフトウェアの貸出しあるいは、返却等を自動化（無人化等）することができる。

【0132】また、識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料（中古ソフトの使用料、中古ソフト業者の取り分）を徴収することができる。また、中古ソフト業者はソフトウェア使用料をソフトウェア購入者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことができ、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号記憶個数変更手段を備えた中古ソフト販売システムを使用すれば、中古ソフトウェアの販売を自動化（無人化等）することができる。

【0133】また、識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムではソフトウェア製作会社は確実にソフトウェア使用料（中古ソフトの使用料、中古ソフト業者の取り分）を徴収することができる。また、中古ソフト

業者はソフトウェア使用料をソフトウェア購入者から徴収してソフトウェア製作会社に支払う作業を効率よく行うことが、且つ、通信コストや作業コストを削減できる。また、識別番号消去手段を備えた中古ソフト販売システムを使用すれば、中古ソフトウェアの販売を自動化（無人化等）することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムの概略図である。

【図2】この発明に係る識別番号記憶部個数変更装置の概略図である。

【図3】この発明に係る識別番号消去装置の概略図である。

【図4】この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムでメモリーカードを用いた場合のフローチャートである。

【図5】この発明に係る識別番号記憶部個数変更装置のフローチャートである。

【図6】この発明に係る識別番号消去装置のフローチャートである。

【図7】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いた個人貸し出しの概略図である。

【図8】この発明に係る識別番号消去手段を用いた個人貸し出しの概略図である。

【図9】この発明に係る補助外部記憶手段を用いた個人貸し出しの概略図である。

【図10】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いた中古ソフト販売の概略図である。

【図11】この発明に係る識別番号消去手段を用いた中古ソフト販売の概略図である。

【図12】この発明に係る補助外部記憶手段を用いた中古ソフト販売の概略図である。

【図13】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いたソフトウェアレンタルの概略図である。

【図14】この発明に係る識別番号消去手段を用いたソフトウェアレンタルの概略図である。

【図15】この発明に係る補助外部記憶手段を用いたソフトウェアレンタルの概略図である。

【図16】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いたダウンロードソフトの個人貸し出しの概略図である。

【図17】この発明に係る識別番号消去手段を用いたダウンロードソフトの個人貸し出しの概略図である。

【図18】この発明に係る補助外部記憶手段を用いたダウンロードソフトの個人貸し出しの概略図である。

【図19】この発明に係る識別番号消去手段を用いたソフトウェアレンタルシステムの概略図である。

【図20】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いたソフトウェアレンタルシステムの概略図である。



【図21】この発明に係る識別番号消去手段を用いた中古ソフトウェア販売システムの概略図である。

【図22】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いた中古ソフトウェア販売システムの概略図である。

【図23】この発明に係るソフトウェアの使用端末固定化システムでメモリーカードを用いない場合のフローチャートである。

【図24】この発明にかかるメモリーカードに識別番号を記憶させる場合のフローチャートである。

【図25】この発明にかかるソフトウェアを複製（コピー）する場合のフローチャートである。

【図26】この発明に係る識別番号消去手段を用いたソフトウェアレンタル装置の概略図である。

【図27】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いたソフトウェアレンタル装置の概略図である。

【図28】この発明に係る識別番号消去手段を用いた中古ソフトウェア販売装置の概略図である。

【図29】この発明に係る識別番号記憶部個数変更手段を用いた中古ソフトウェア販売装置の概略図である。

【図30】識別番号を複製する実施例である。

【図31】識別番号を複製してソフトウェアを使用する方法の実施例である。

【図32】識別番号を複製してダウンロードしたソフトウェアを使用する方法の実施例である。

【図33】識別番号を複製する方法を用いたソフトウェアレンタルシステムの実施例である。

【図34】識別番号を複製する方法を用いた中古ソフトウェア販売システムの実施例である。

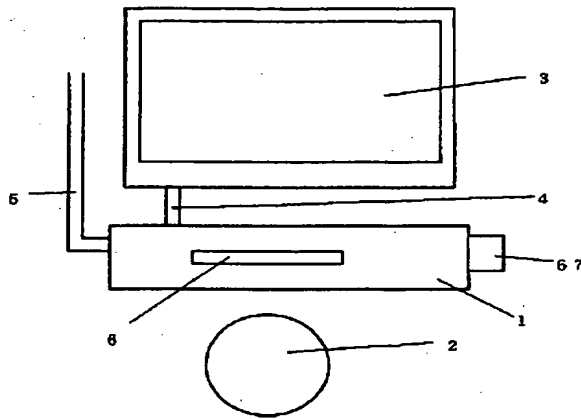
#### 【符号の説明】

- 1 コンピュータゲーム機（「外部記憶媒体を読み出す読み出し手段」、「識別情報付与手段」、「読み出し抑止手段」、「識別番号登録手段」）
- 2 CD-ROM（「ソフトウェアの記憶された外部記憶媒体」）
- 3 モニター（テレビ）
- 4 ケーブル（モニター3とコンピュータゲーム機1とを繋ぐ）
- 5 ケーブル（ネットワークとコンピュータゲーム機1を繋ぐ）
- 6 CD-ROMの挿入口
- 7 識別番号記憶個数変更装置
- 8 識別番号消去装置
- 9 ケーブル（ネットワーク繋ぐ）
- 10 ゲームソフト製作会社
- 11 人間
- 12 ゲーム機A（識別番号AA）
- 13 識別番号記憶個数変更手段
- 14 人間
- 15 ゲーム機B（識別番号BB）
- 16 識別番号消去手段
- 17 中古ソフト業者（中古卸業者）
- 18 DVDプレーヤーA（識別番号記AA）
- 19 レンタル業者
- 20 ソフト制作会社
- 21 音楽配信用ホームページ
- 22 パソコンA（識別番号AA）
- 23 パソコンB（識別番号BB）
- 24 人間A
- 25 人間B
- 26 人間C
- 27 人間D
- 28 人間E
- 29 人間F
- 30 人間G
- 31 人間H
- 32 識別番号AA付与済ソフト、判別情報 甲
- 33 識別番号BB付与済ソフト、判別情報 乙
- 34 識別番号CC付与済ソフト、判別情報 甲
- 35 識別番号DD付与済ソフト、判別情報 乙
- 36 識別番号消去済ソフト、判別情報 甲
- 37 識別番号消去済ソフト、判別情報 乙
- 38 識別番号消去済ソフト、判別情報 甲
- 39 識別番号消去済ソフト、判別情報 乙
- 40 レンタル店α1（識別番号消去手段）
- 41 レンタル店α2（識別番号消去手段）
- 42 レンタル店β1（識別番号消去手段）
- 43 レンタル店β2（識別番号消去手段）
- 44 レンタル業者αホストサーバー
- 45 レンタル業者βホストサーバー
- 46 ソフトウェア管理センター
- 47 ソフトウェア製作会社 甲
- 48 ソフトウェア製作会社 乙
- 49 レンタル店α1（識別番号記憶個数変更手段）
- 50 レンタル店α2（識別番号記憶個数変更手段）
- 51 レンタル店β1（識別番号記憶個数変更手段）
- 52 レンタル店β2（識別番号記憶個数変更手段）
- 53 記憶個数変更済ソフト、判別情報 甲
- 54 記憶個数変更済ソフト、判別情報 乙
- 55 記憶個数変更済ソフト、判別情報 甲
- 56 記憶個数変更済ソフト、判別情報 乙
- 57 中古ソフト店α1（識別番号消去手段）
- 58 中古ソフト店α2（識別番号消去手段）
- 59 中古ソフト店β1（識別番号消去手段）
- 60 中古ソフト店β2（識別番号消去手段）
- 61 中古ソフト業者αホストサーバー
- 62 中古ソフト業者βホストサーバー
- 63 中古ソフト店α1（識別番号記憶個数変更手段）
- 64 中古ソフト店α2（識別番号記憶個数変更手段）
- 65 中古ソフト店β1（識別番号記憶個数変更手段）

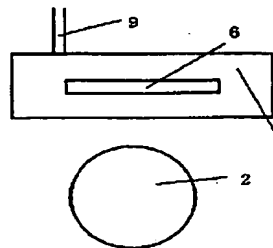
66 中古ソフト店β2（識別番号記憶個数変更手段）  
 67 補助外部記憶手段（メモリーカード）  
 68 ソフトウェア挿入口

69 ディスプレイ  
 70 現金挿入口  
 71 会員カード挿入口

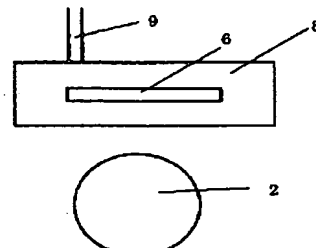
【図1】



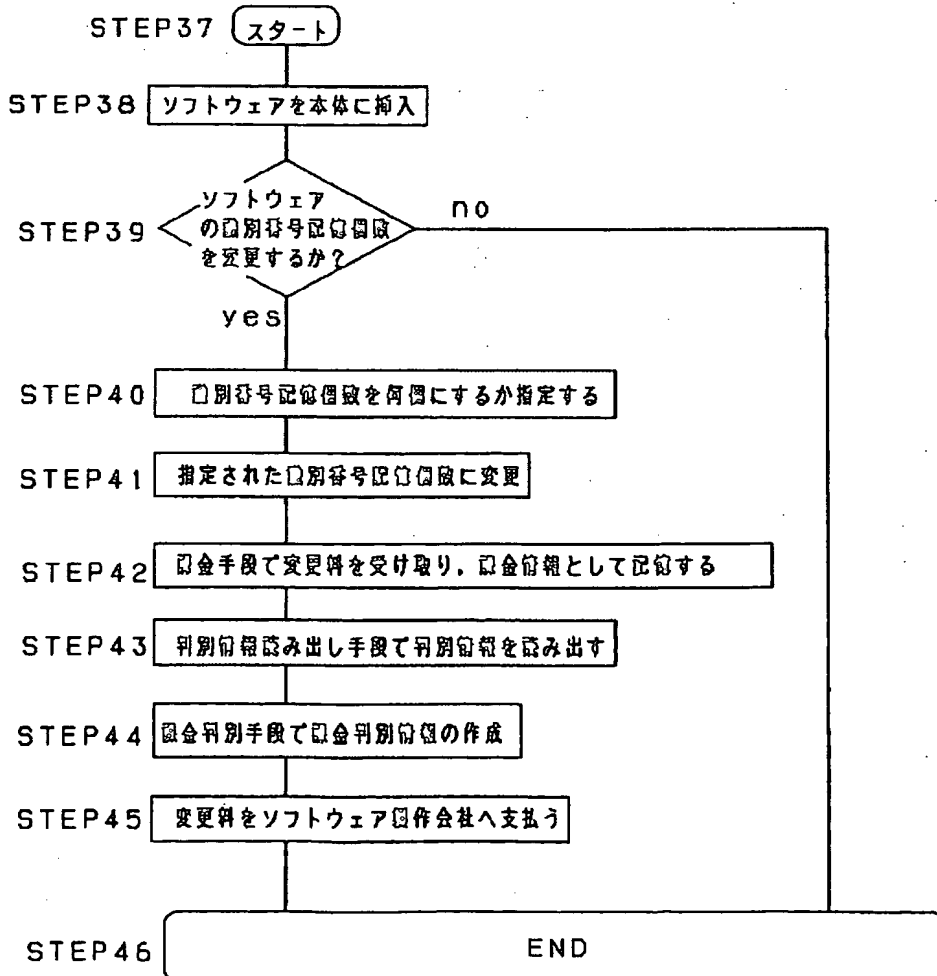
【図2】



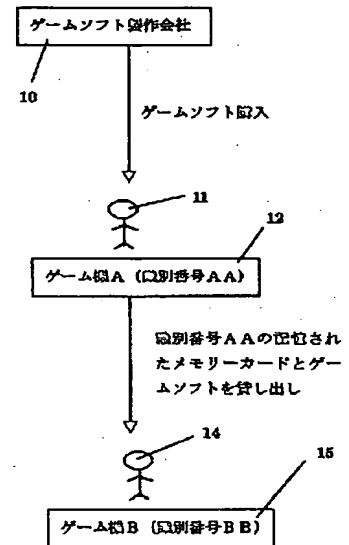
【図3】



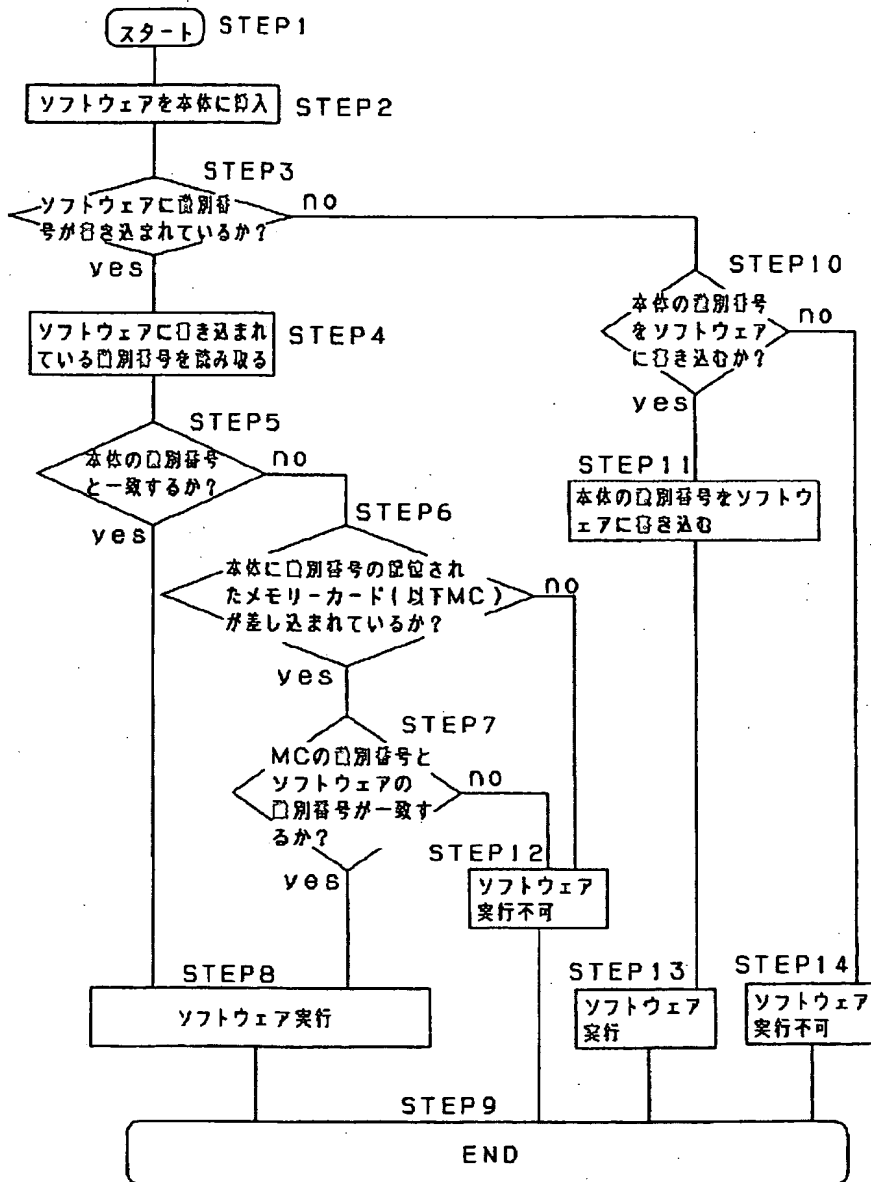
【図5】



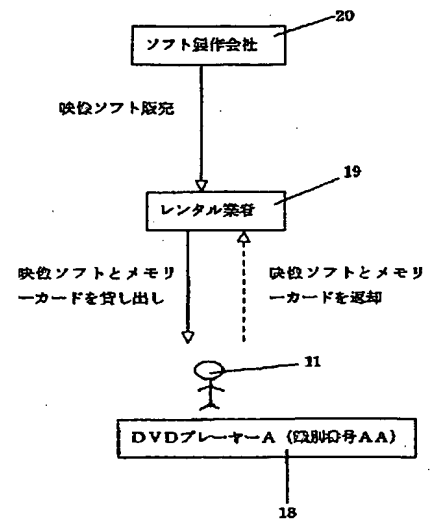
【図9】



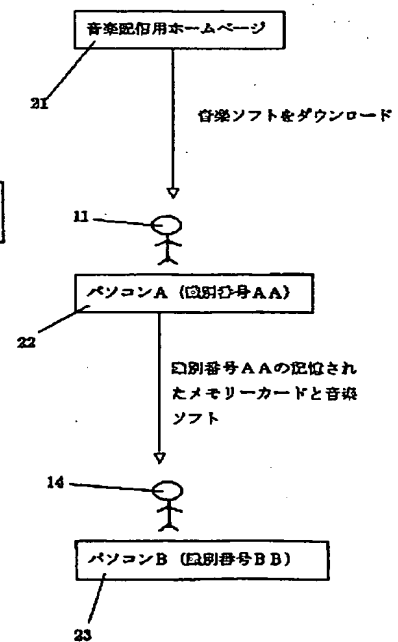
【図4】



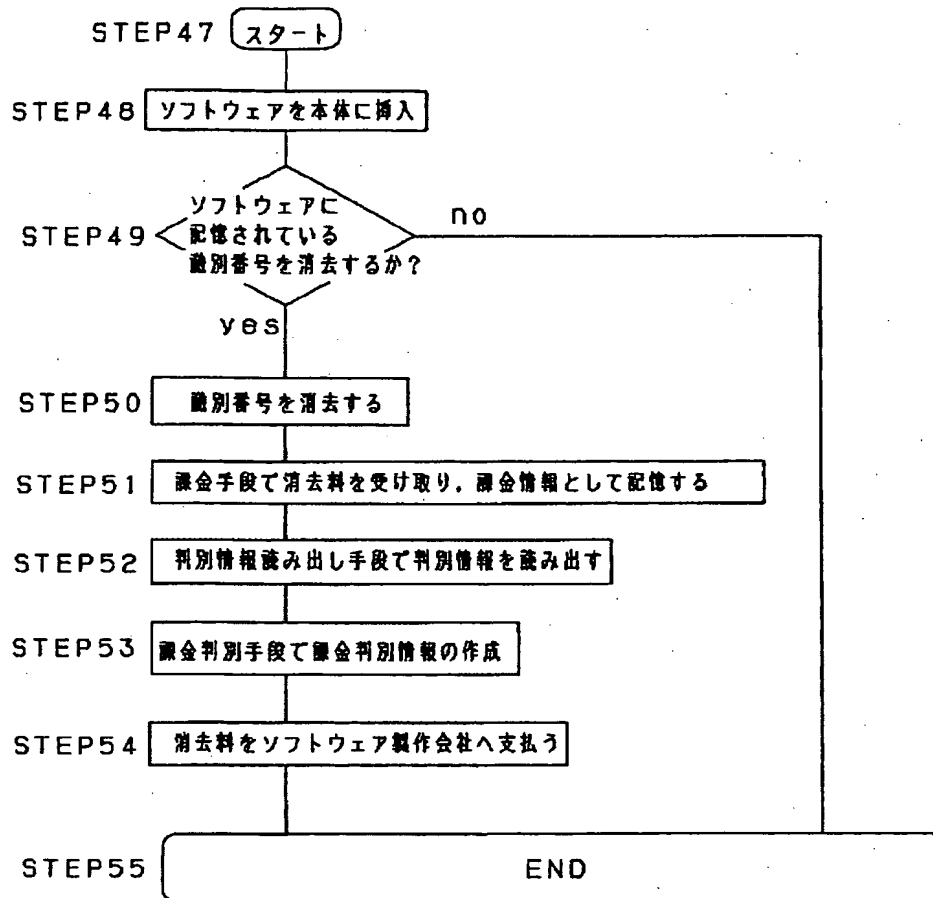
【図15】



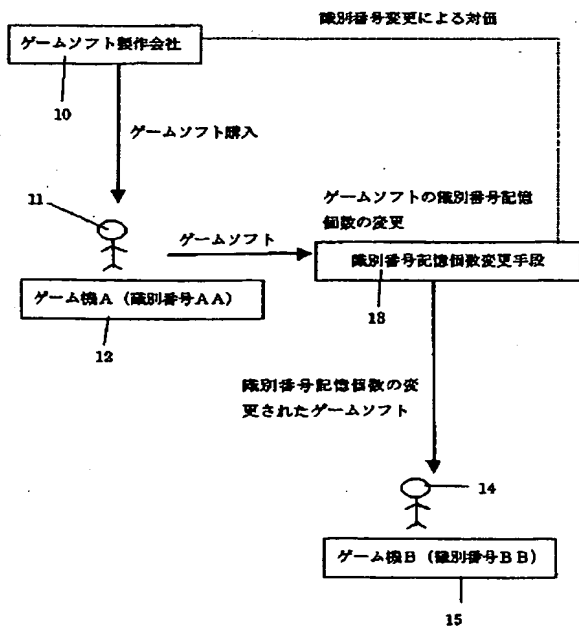
【図18】



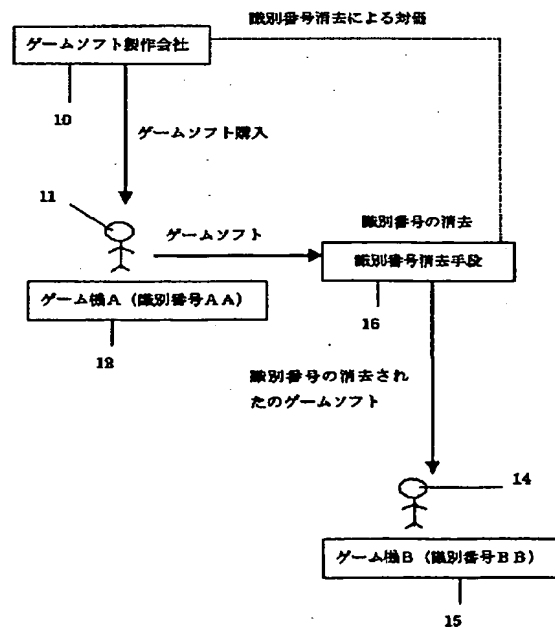
【図6】



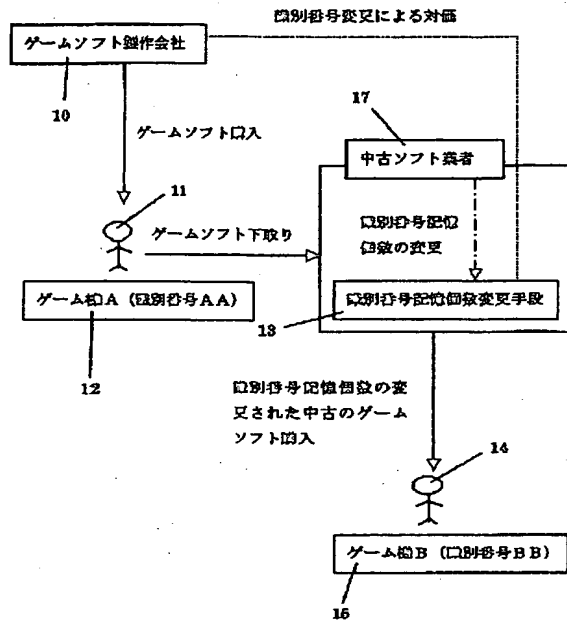
【図7】



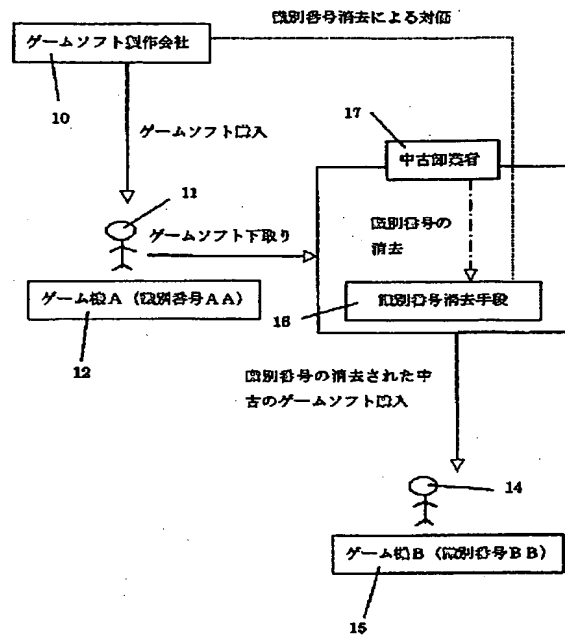
【図8】



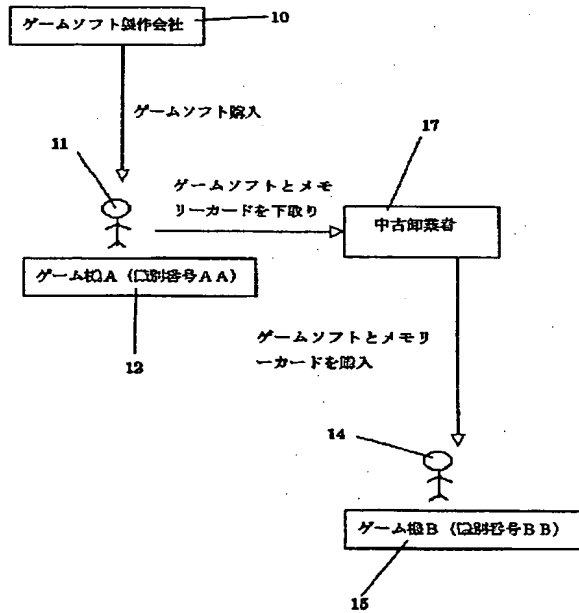
【図10】



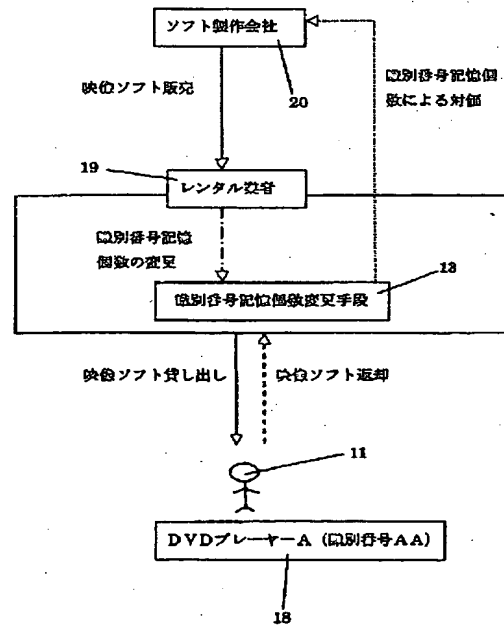
【図11】



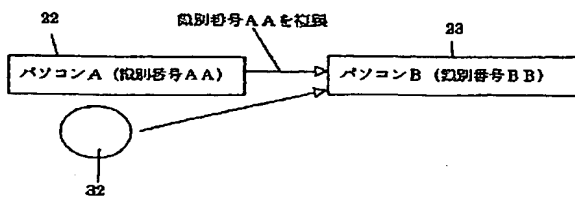
【図12】



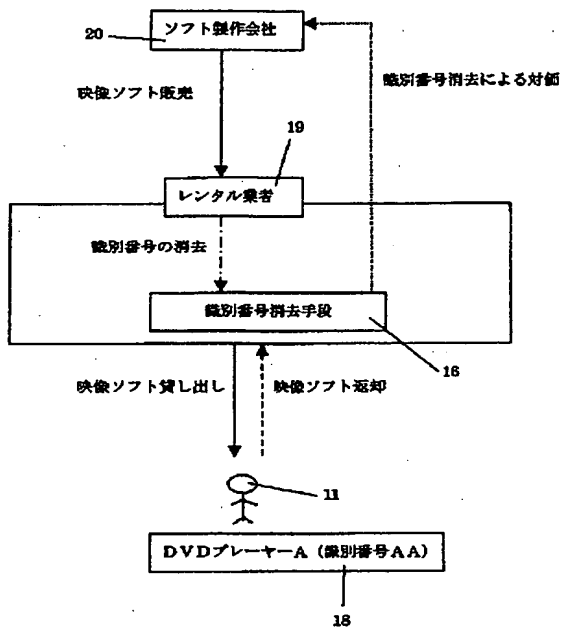
【図13】



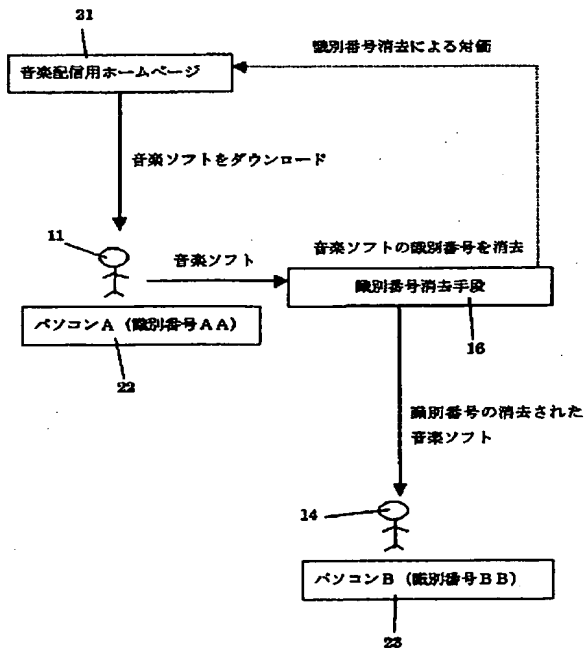
【図31】



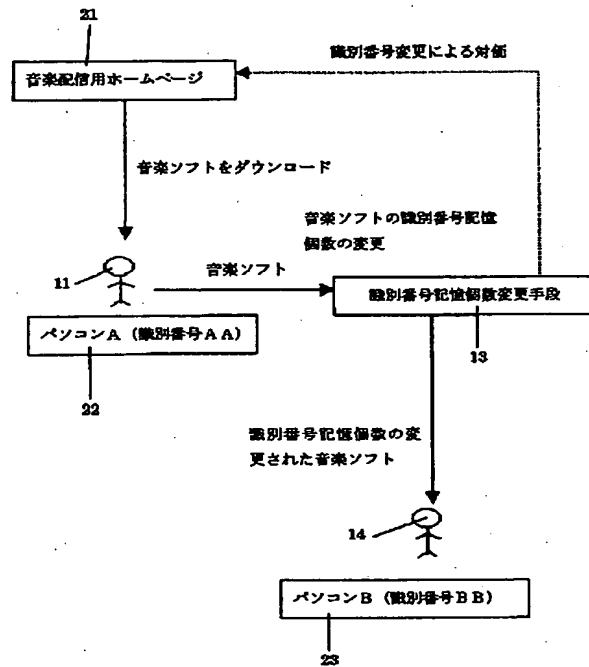
【図14】



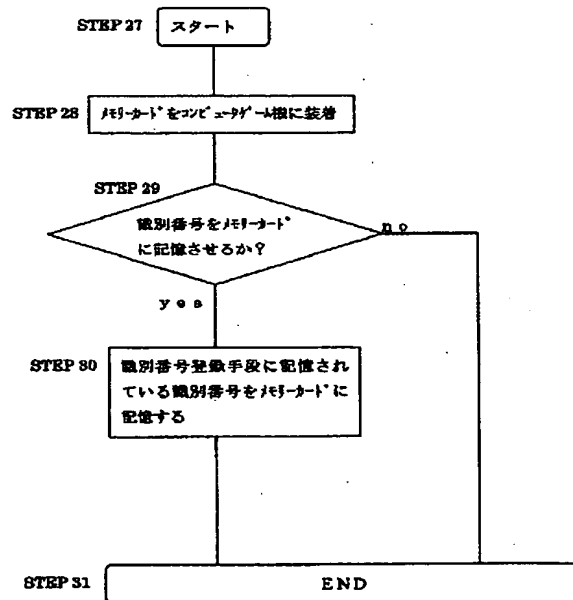
【図17】



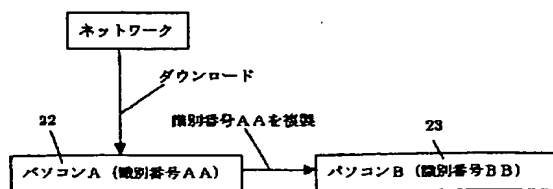
【図16】



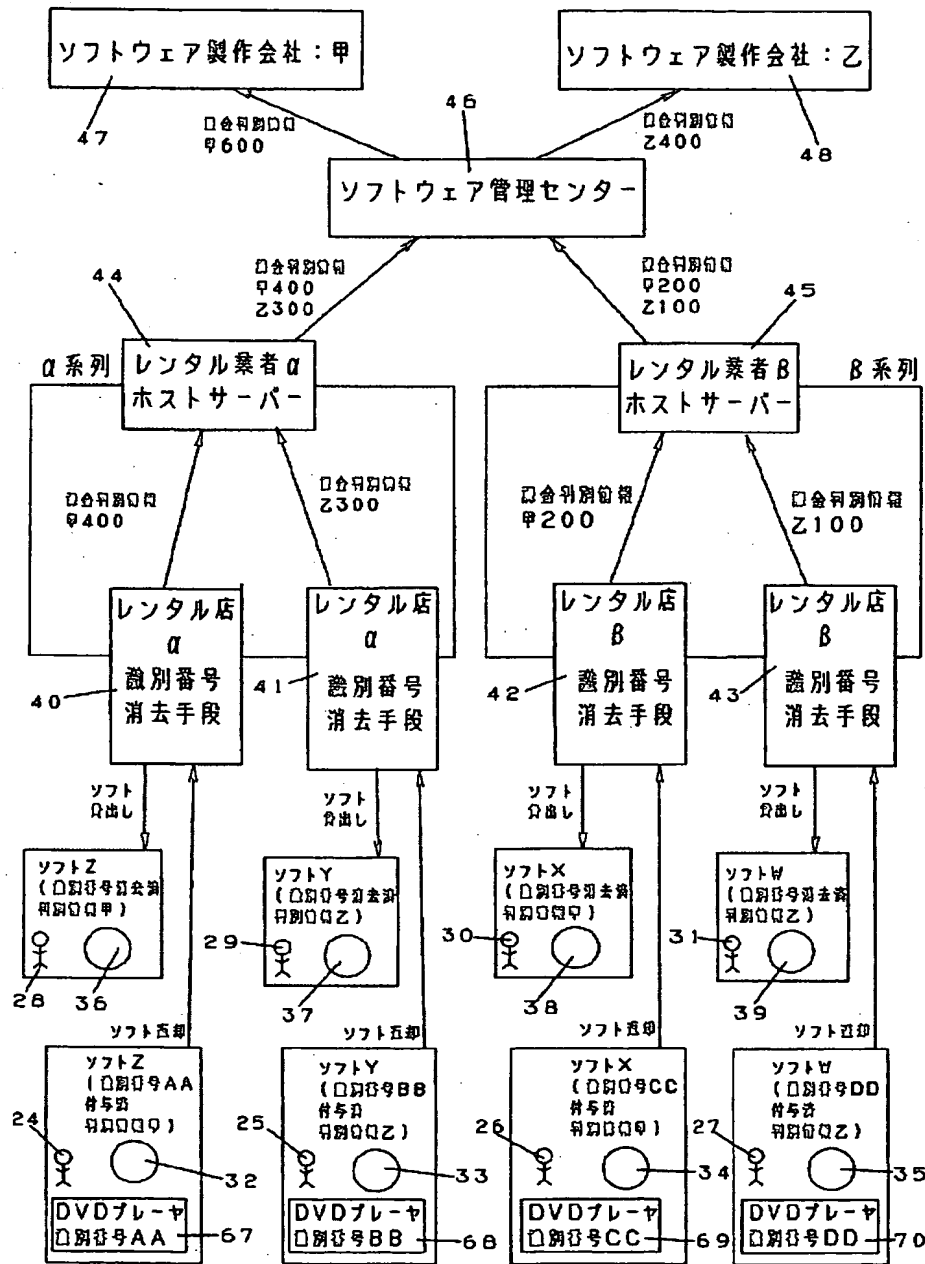
【図24】



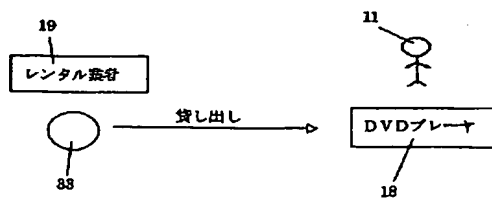
【図32】



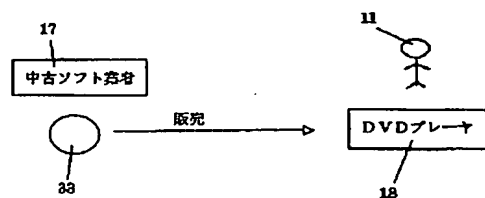
【図19】



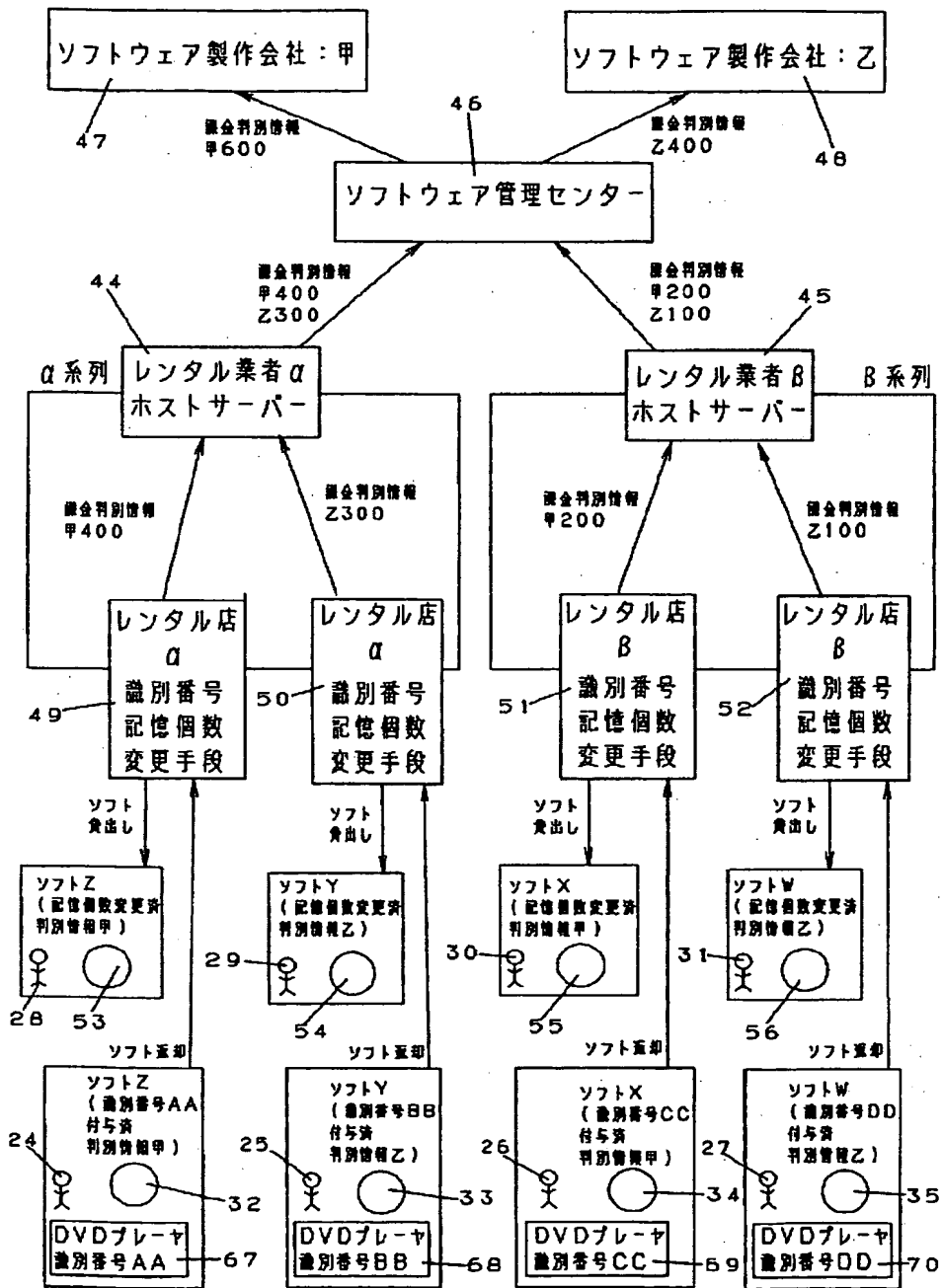
【図33】



【図34】

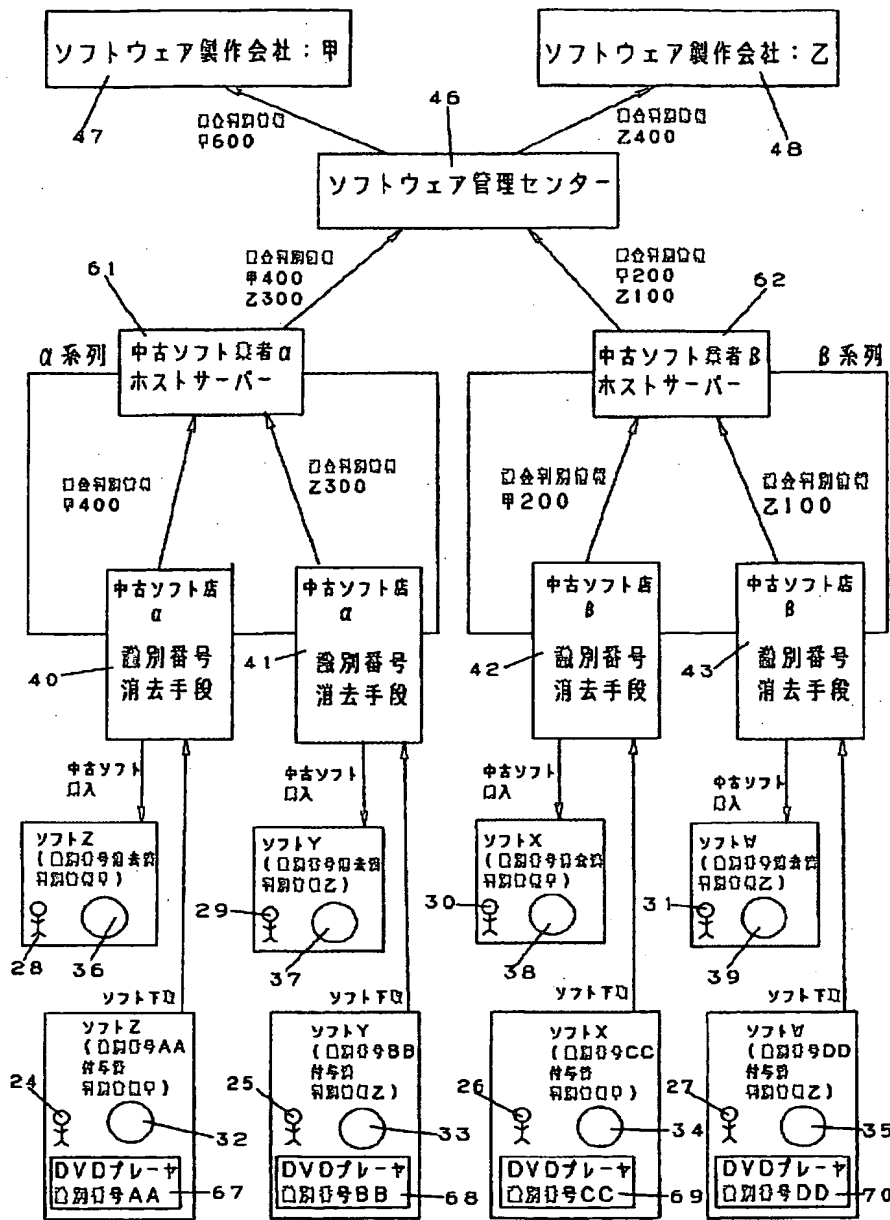


【図20】

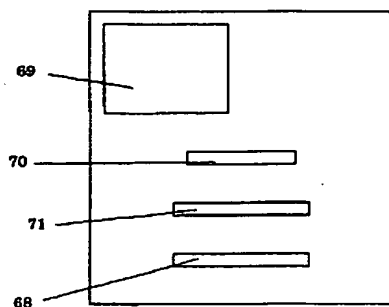




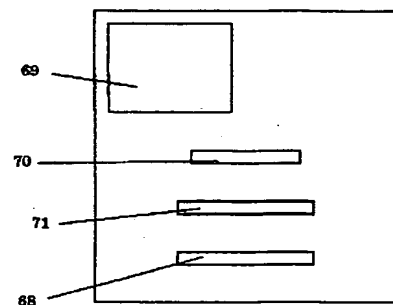
【図21】



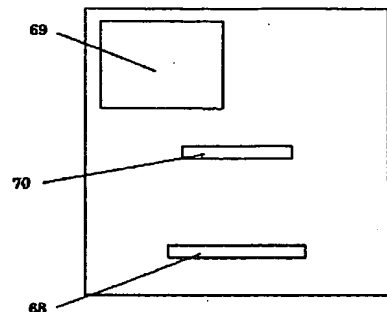
【図27】



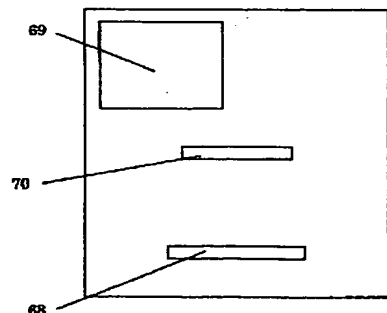
【図26】



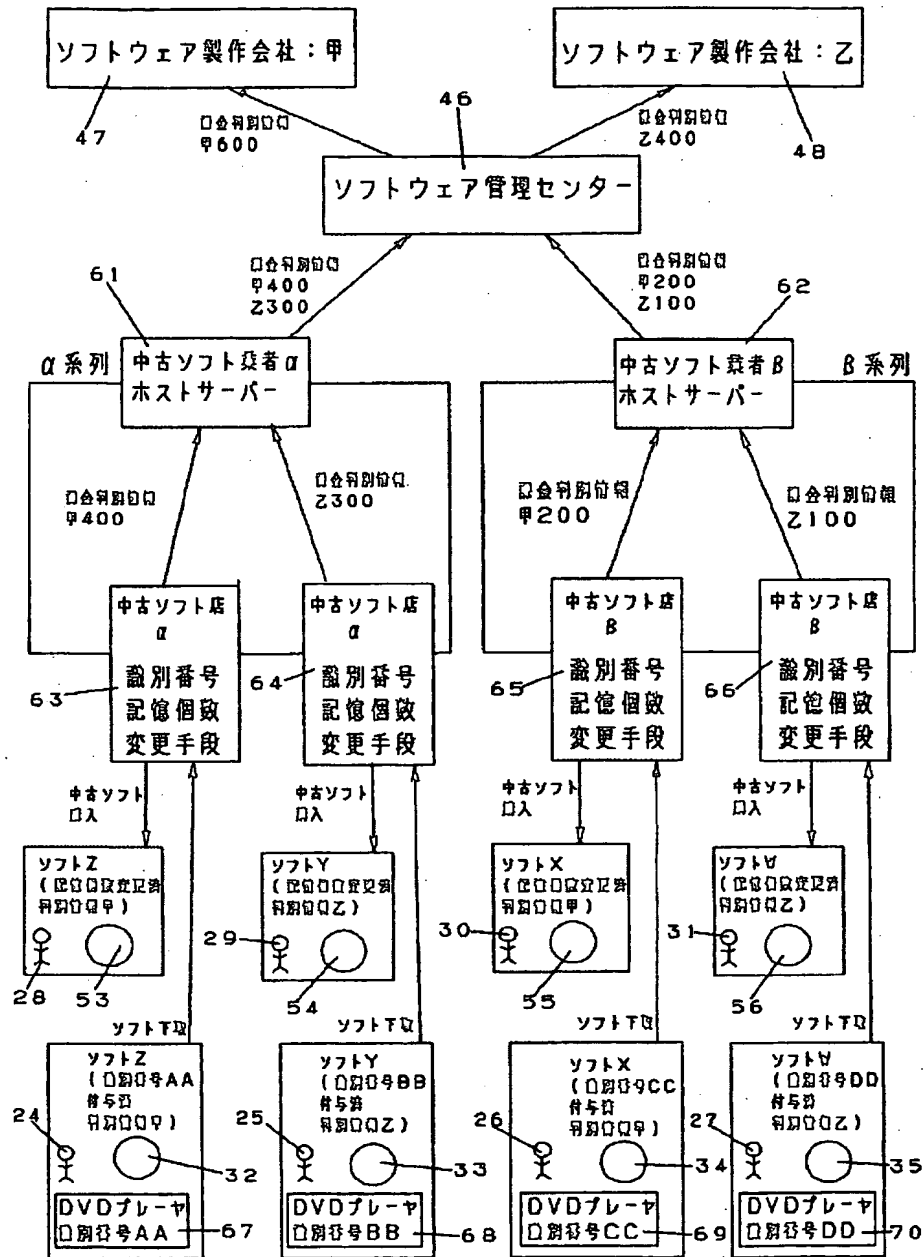
【図28】



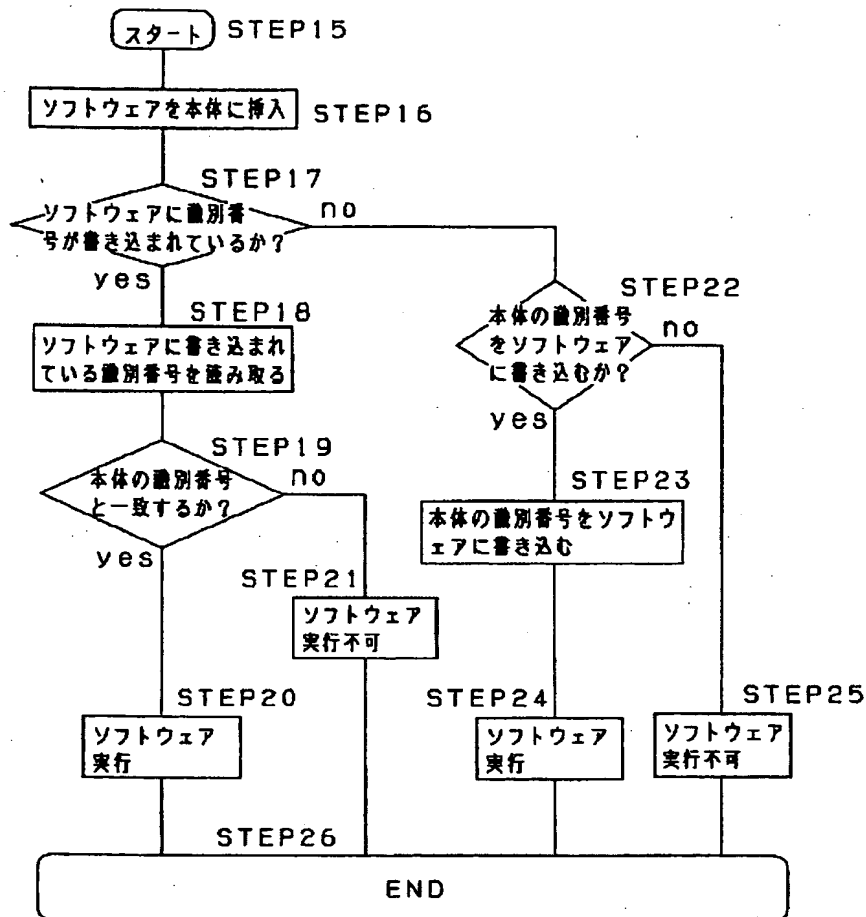
【図29】



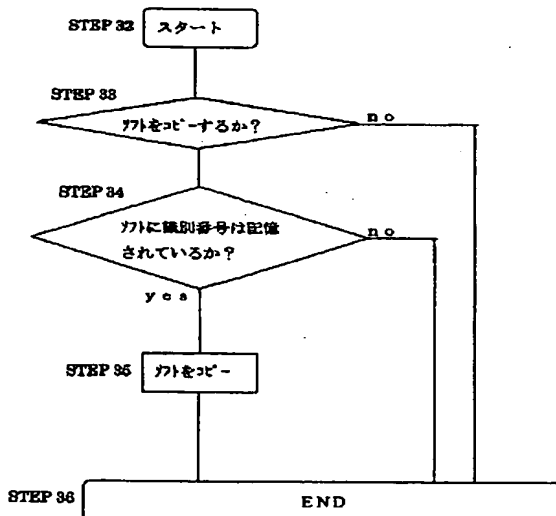
【図22】



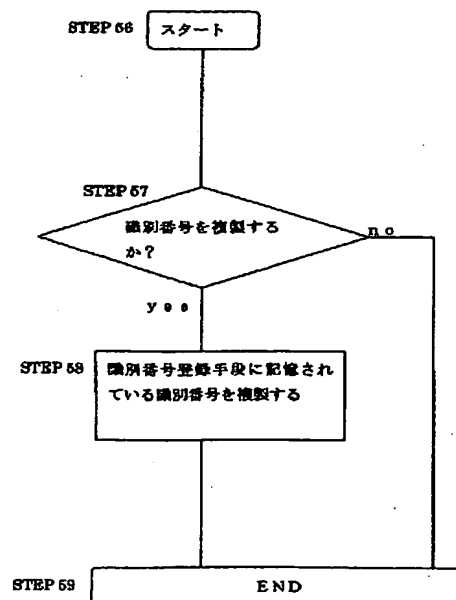
【図23】



【図25】



【図30】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**